

第12回 がん対策推進協議会 参考資料

2010年3月11日

がん対策推進協議会委員

(日本医療政策機構 がん政策情報センター長)

埴岡 健一

■都道府県別がん関連指標データ (グラフ表示) [別紙、グラフ集参照]

内容

- ・死亡率
- ・死亡率経年変化 (4年比較)
- ・死亡率改善度 (10年比較)
- ・疾病別死亡率
- ・市区町村別標準化死亡比

- ・検診率
- ・市区町村別検診率
- ・喫煙率

- ・都道府県がん予算

- ・専門医数
- ・専門・認定看護師数

——など

*データについては、定期/随時更新がなされていますので、データソースにて最新データをご確認ください。

*多くのデータに関して、その意味するところや政策的解釈の仕方についてはまだ定説が十分にありませんのでご留意ください。また、データの分析および政策立案や評価への活用手法が研究され、早期に実用化されることが望まれます。

■ 「都道府県別がん関連指標データ」についての小考察

(1) 活用の方向

- ・ いずれの指標も都道府県（地域）間の格差がある。特に格差が大きい分野もある。
- ・ 地域別データにより、特に数値の悪い地区を明らかにすることが重要である。
- ・ また、当事者である地域住民に現状を明確に知らせることが重要である。
- ・ 評価、指標の動向を継続的に追えるようにすることが重要である。
- ・ 県別のみならず、県内の二次医療圏別・市町村別データも重要である。

(2) 死亡率など基本的データ

- ・ 都道府県別格差データを、視覚的に理解しやすく表示することが重要である。
- ・ 全死亡率だけでなく、男女別・疾病別の死亡率を表示することが重要である。
- ・ 地域がん登録が整備されている地区に関しては、罹患、死亡、治療についてのデータをセットで表示することが重要である。全国でそれができるように地域がん登録の全国整備、精度向上が必要である。

[データに見る諸側面]

- ・ がん死亡率に地域格差が存在する。

2008年の男性のがん年齢調整死亡率（75歳未満）で死亡率が高い上位5県は、青森県、鳥取県、長崎県、大阪府、秋田県。死亡率が低い上位5県は長野県、熊本県、滋賀県、福井県、岡山県。もっとも男性のがん死亡率の高い青森県は、もっとも死亡率の低い長野県と比べて1.5倍。全国平均よりも死亡率の高い県は16県（34%）あった。

2008年の女性のがん年齢調整死亡率（75歳未満）において死亡率が高い上位5県は、青森県、佐賀県、長崎県、北海道、大阪府。死亡率が低い上位5県は三重県、長野県、山梨県、沖縄県、岩手県。もっとも女性のがん死亡率の高い青森県は三重県に比べて1.4倍。全国平均よりも死亡率の高い県は16県（34%）あった。

- ・ がん年齢調整死亡率（75歳未満）の2005年から2008年までの4年間の経年変化を見ても、その度合に格差が存在する。

男性がん年齢調整死亡率の減少の幅が大きい上位3県は高知県、佐賀県、奈良県。一方で、山形県、富山県、宮崎県、鳥取県は4年間で死亡率が増加している。女性がん年齢調整死亡率の減少の幅が大きい上位3県は岩手県、山口県、滋賀県。一方で、富山県、大分県、長崎県、宮崎県など、4年間で死亡率が増加した県は11県あった。死亡率が減少した要因はもちろんのこと、増加した要因も考察すべきである。

- ・ がん年齢調整死亡率（75歳未満）の1998年から2008年の改善度にも格差が存在する。

男性がん死亡率改善度が高い上位5県は、徳島県、愛媛県、栃木県、奈良県、広島県。男性がん死亡率改善度が低い上位5件は、鳥取県、沖縄県、青森県、島根県、長崎県。特に、鳥取県、青森県、長崎県については、2008年の男性のがん年齢調整死亡率（75歳

未満)で死亡率が高い上位5県に入っている。

女性がん死亡率改善度が高い上位5県は、奈良県、三重県、山口県、岩手県、京都府。
女性がん死亡率改善度が低い上位5県は、長崎県、高知県、新潟県、青森県、山梨県。
特に、長崎県、青森県については、2008年の女性のがん年齢調整死亡率(75歳未満)で
死亡率が高い上位5県に入っている。

- ・疾病別の死亡率にも地域格差が存在する

疾病別の中でも特に男性胃がんの死亡率格差が大きい。男性胃がん死亡率の最も高い
秋田県の死亡率は、最も低い沖縄県の2.5倍である。

今後は、検診率のデータや都道府県のがん対策予算のデータと合わせて傾向をみるな
どして、どのような要因が死亡率に影響を与えているのかを明らかにしつつ、モニター
していくことが必要である。

(3) 検診率など対策の状況を示すデータ

- ・死亡率などの「結果」のみならず、がん検診率などの「対策」に関する指標も、視覚的
に理解しやすく表示することが重要である。
- ・特に、当該疾病の死亡率が高いにもかかわらず、検診率が低い地域を明らかにすること
が重要である。
- ・一方で、すでにごがん検診率が70%、60%、50%を上回っている市町村があることも示すべき
である。
- ・今後は、がん死亡率などの基本指標とがん対策の相関をモニターすることが重要である。

[データに見る諸側面]

- ・検診率にも地域格差が存在する。

胃がん(男女)、大腸がん(男女)、肺がん(男女)、乳がん、子宮がん、それぞれの検
診率に格差が存在する。

既に目標である検診率50%を達成している都道府県はないが、市区町村別にみると既に
50%を超えている地区が存在する。

男性の胃がん検診率を例にとると、和歌山県のように胃がん死亡率が高い上位10県に
入る一方で、胃がん検診率の低い上位10県にも入る県が存在する。

今後は疾病別の死亡率との関係や、検診率の経年変化、都道府県のがん対策予算など
のデータとの関係などをモニターしていく必要がある。

(4) 都道府県がん対策予算データのモニター

- ・各都道府県のがん対策予算を地域横断的に把握することは重要である。
- ・がん対策予算の都道府県格差も大きく、モニターする必要がある。
- ・こうした情報を地域住民ならびに都道府県に提供すべきである。

- ・一部の都道府県が前向きな予算項目、創意工夫のある予算項目を付けている。そうした好事例に関しては、情報が早期に共有されるべきである。
- ・上記のような予算項目が実際に効果をもたらすかモニターが重要である。効果をもたらしたのであれば、全国に積極的に推奨すべきである。
- ・十分な費用対効果があるのか疑問の余地がある項目も含まれる可能性がある。それに関しては、必要に応じて注意喚起が求められる。

[データに見る諸側面]

- ・都道府県ががん対策予算にも地域格差が存在する。
人口100万人あたりの各都道府県ががん対策予算について、2007年度に比べ、2008年度の全国平均額が増加しているが、県別にみると格差は大きい。
2008年度のがん対策予算額が前年度に比べて増加比率の大きい上位3県は、青森県、群馬県、埼玉県など。一方で、前年と比較し、2008年度のがん対策予算額の減少が大きい上位3県は滋賀県、島根県、鳥取県。
医療施設・設備の建設などハードウェアに巨額の投資をする地域があるが、その妥当性は十分に検討する必要がある。
- ・予算については都道府県の回答方法に必ずしも統一性がなく、網羅性もないため、単純な横比較や経年比較には注意が必要であるが、予算の内訳や変動と、検診率や死亡率などの基礎的なデータとの連関をモニターしていく必要がある。

(5) がん関連医療従事者資源データのモニター

- ・がん関連医療従事者資源（専門医・専門看護師／認定看護師など）の都道府県格差も大きく、モニターする必要がある。
- ・二次医療圏ごとの偏在も大きいと予想される。
- ・全体に不足している職種は、偏在に注意しながら全体を増やしていくべきである。
- ・全体の不足が比較的少なく、偏在が多い職種は、偏在の解消を検討すべきである。
- ・県内で医療資源の配分状況をモニターしながら、医療機関の役割分担を継続議論していくことが重要である。
- ・県内のみならず、ブロック内で医療資源の融通を議論する仕組みが重要である。
- ・それぞれのがんプロフェッショナル養成プログラムで、ブロック内の医療資源の現在もモニターしながら、育成と活用の参考にすることが考えられる。
- ・医療資源データについては、人口比だけでなく、患者比、面積比なども勘案するなど、よりよい評価方法を検討していくことが重要である。
- ・専門職種数のバランスにも着目すべきである。

[データに見る諸側面]

- ・がんに関連する医療従事者の数にも地域格差が存在する。

各地の医療従事者数に差があるが、がん薬物療法専門医やがん看護の専門看護師、訪問看護の認定看護師などが存在しない都道府県もある。

(6) まとめ

- ・さまざまなデータを総合して比較する必要がある。

たとえば、2008年のがん年齢調整死亡率（75歳未満）で、死亡率が最も高い青森県についてみると、

- 2005年から2008年の4年間で、男性のがん死亡率は減少しているが、女性のがん死亡率は増加している。
- 1998年から2008年の10年間の死亡改善率は、男女とも全国的にみて低い。
- 疾病別の死亡率では、胃がん死亡率（男女）、肝臓がん死亡率（男女）、肺がん（男）、結腸がん（男女）、直腸がん（男女）、悪性リンパ腫（男女）、白血病（男）、乳がん、子宮がん、卵巣がんにおいて死亡率が全国平均値以上。
- 検診率については、胃がん（男性）の検診率が全国平均値以下。
- 2008年度のがん対策予算は2007年度と比べ増額されている。
- がん治療認定医師、がん薬物療法専門医、乳腺専門医、消化器専門医、呼吸器専門医、肝臓専門医、血液専門医、皮膚排泄ケアの認定看護師、訪問看護認定看護師、乳がん看護の認定看護師、がん看護の専門看護師、がん性疼痛看護の認定看護師の数が全国平均以下。特に、がん看護の専門看護師、がん性疼痛看護の認定看護師については県内に一人も存在しない。

今後は、それぞれのデータの関係性を考察したり、がん対策予算によってあらたに行われる取り組みと死亡率との関係をモニターしていくことなどが、必要である。

がんの現状を考える際、現在公開されているデータだけでは比較する際に十分ではない。罹患、死亡、治療などについてのデータが全国的に利用できるよう、がん登録のデータをはじめ、各種のデータ収集・分析・公表の活動を進めることが重要となる。



〔参考資料〕 第12回がん対策推進協議会

2010年3月11日
日本医療政策機構 理事
がん政策情報センター長
<http://ganseisaku.net/>

埴岡(はにおか)健一

2010/3/11

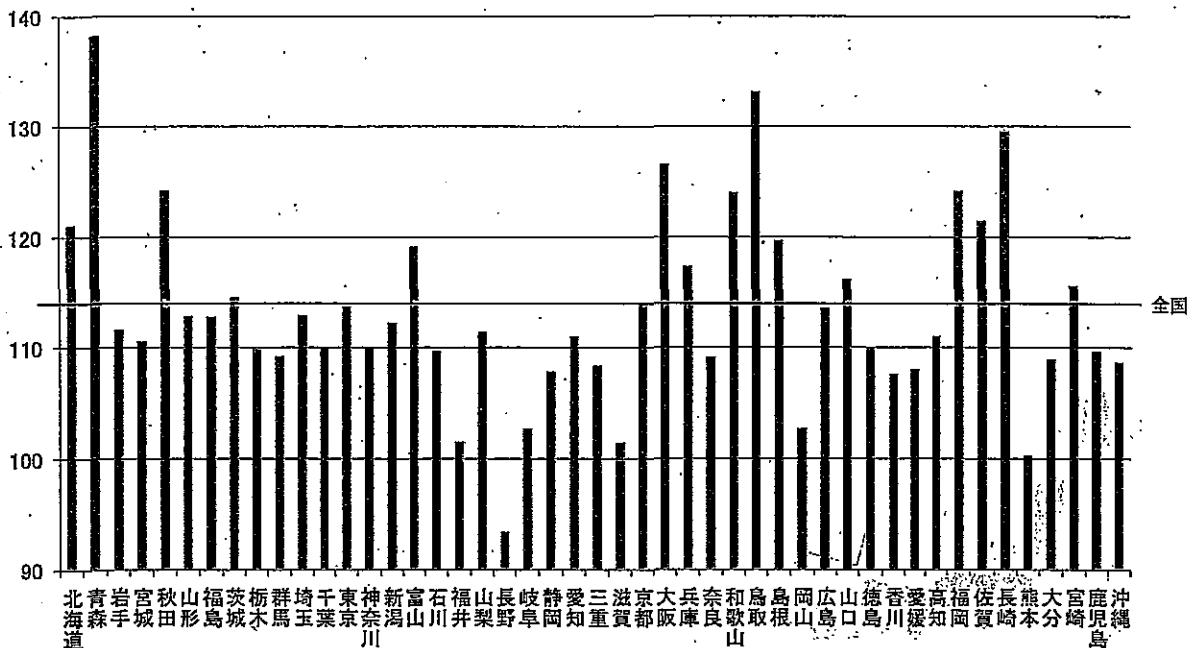
第12回がん対策推進協議会

1



死亡率・男性

がん死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済

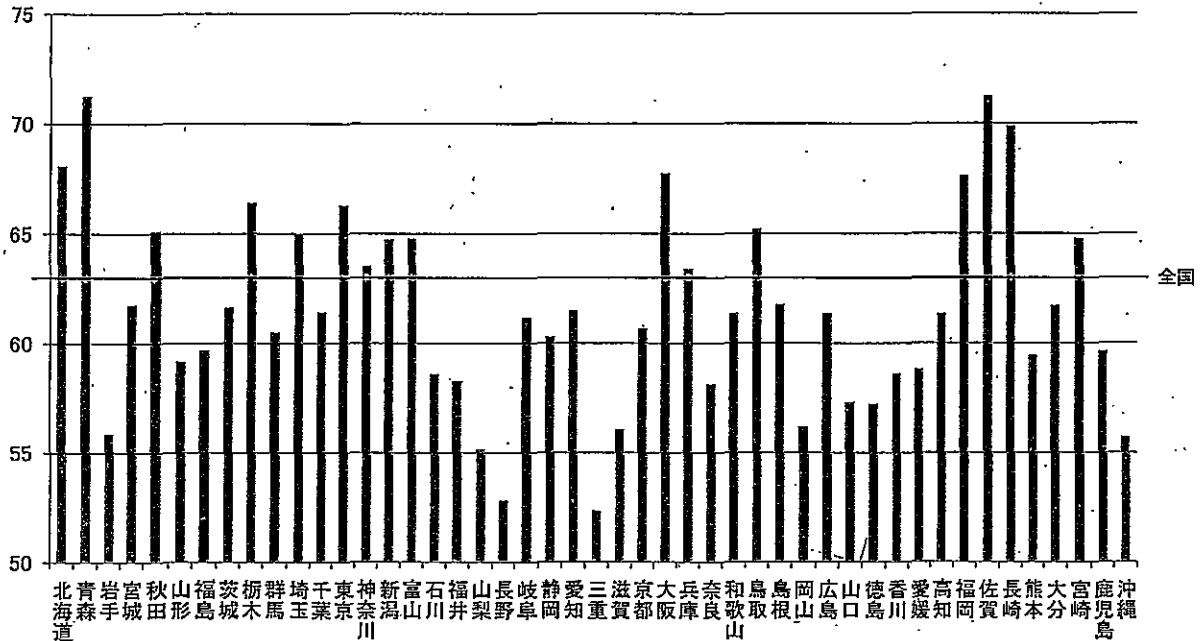


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

死亡率・女性

がん死亡率格差(女性)(2008年)

人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済

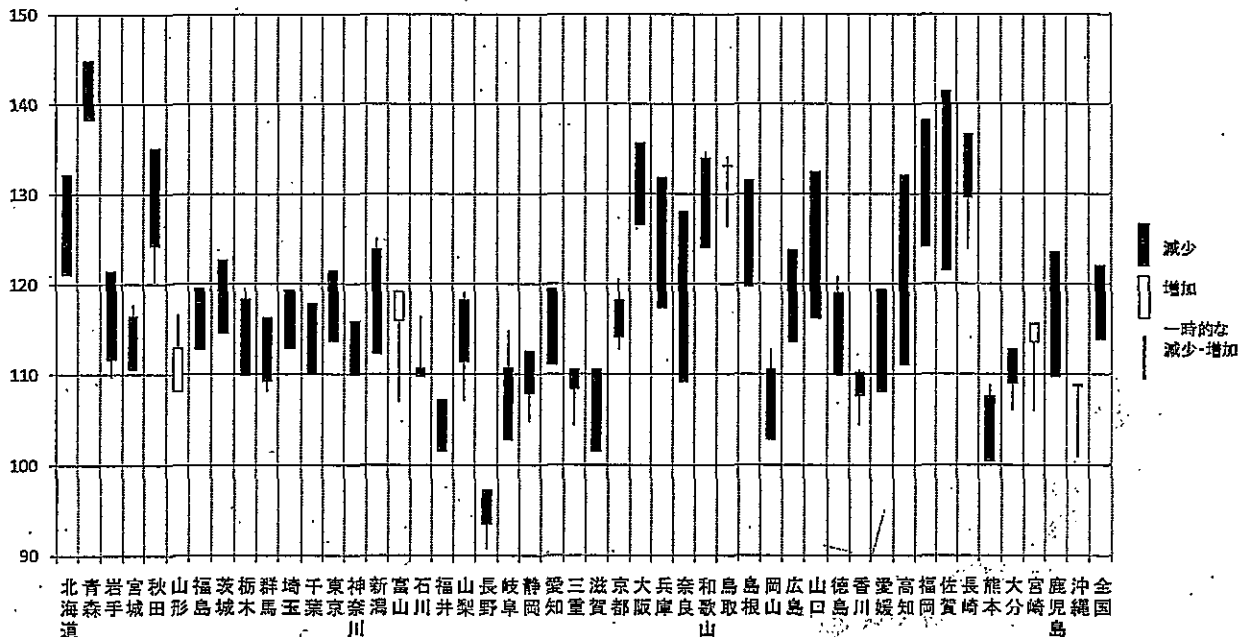


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

死亡率改善度
4年推移・男性

がん死亡率経年変化(男性)(2005-2008年)

人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済

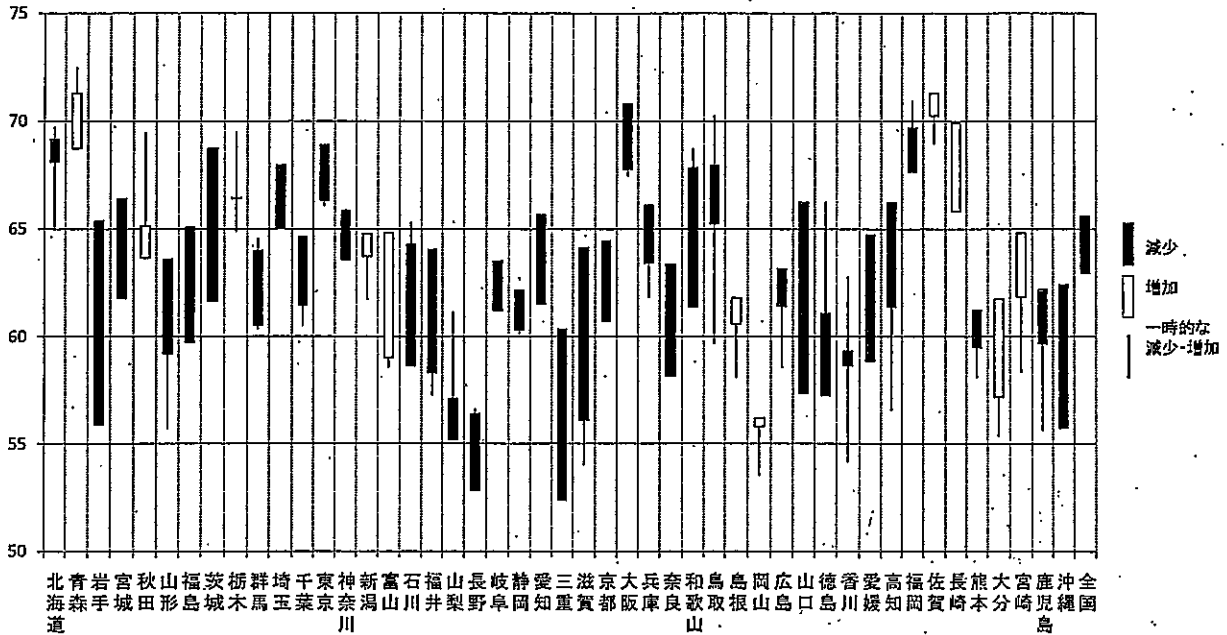


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

がん死亡率経年変化(女性) (2005-2008年)

人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済

死亡率改善度
4年推移・女性

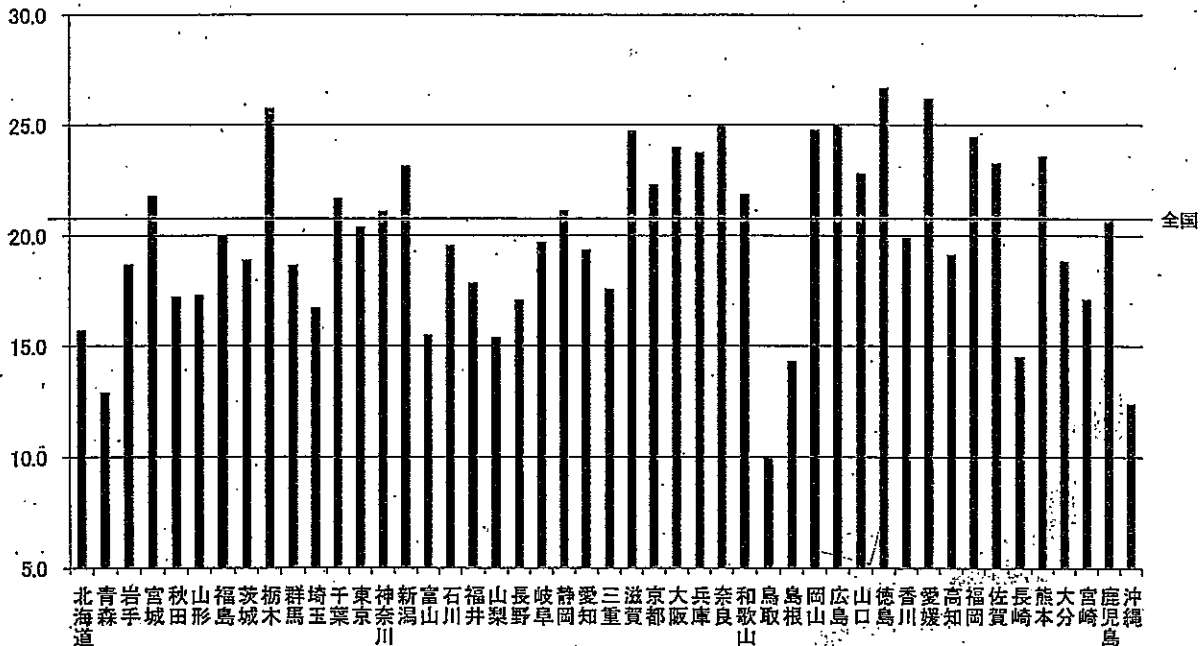


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

がん死亡率改善度格差(男性) (1998年~2008年)

人口10万人当たり 75歳未満、年齢調整済

死亡率改善度
10年比較・男性

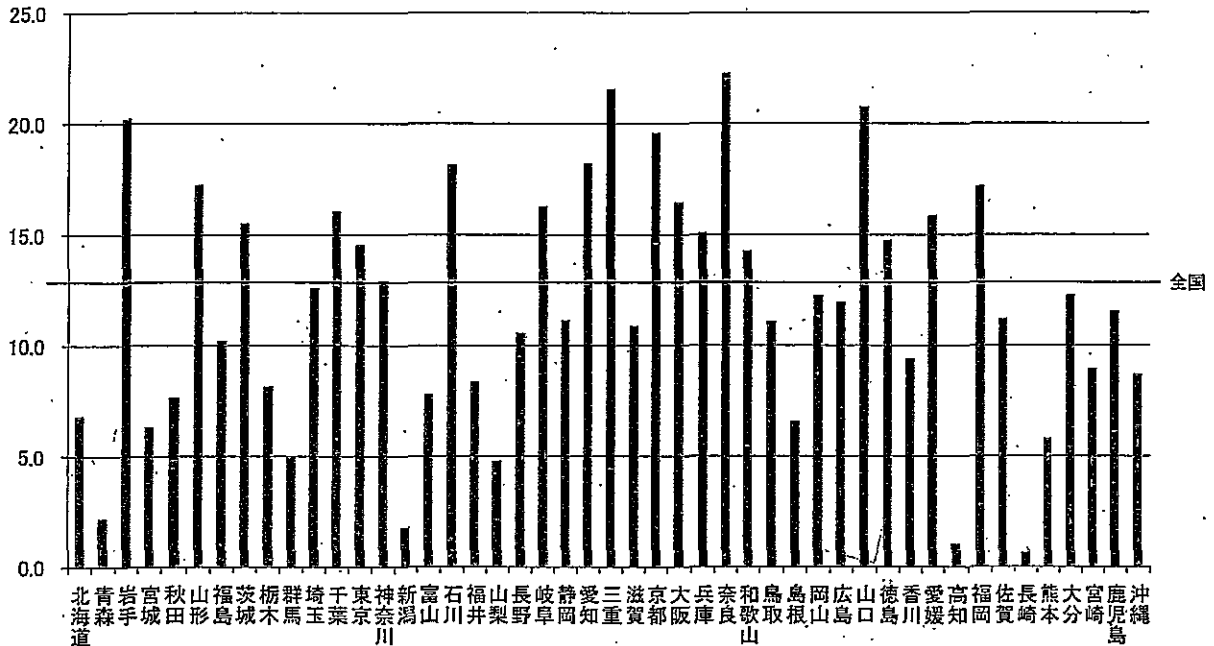


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

がん死亡率改善度格差(女性)(1998年～2008年)

死亡率改善度
10年比較・女性

人口10万人当たり 75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

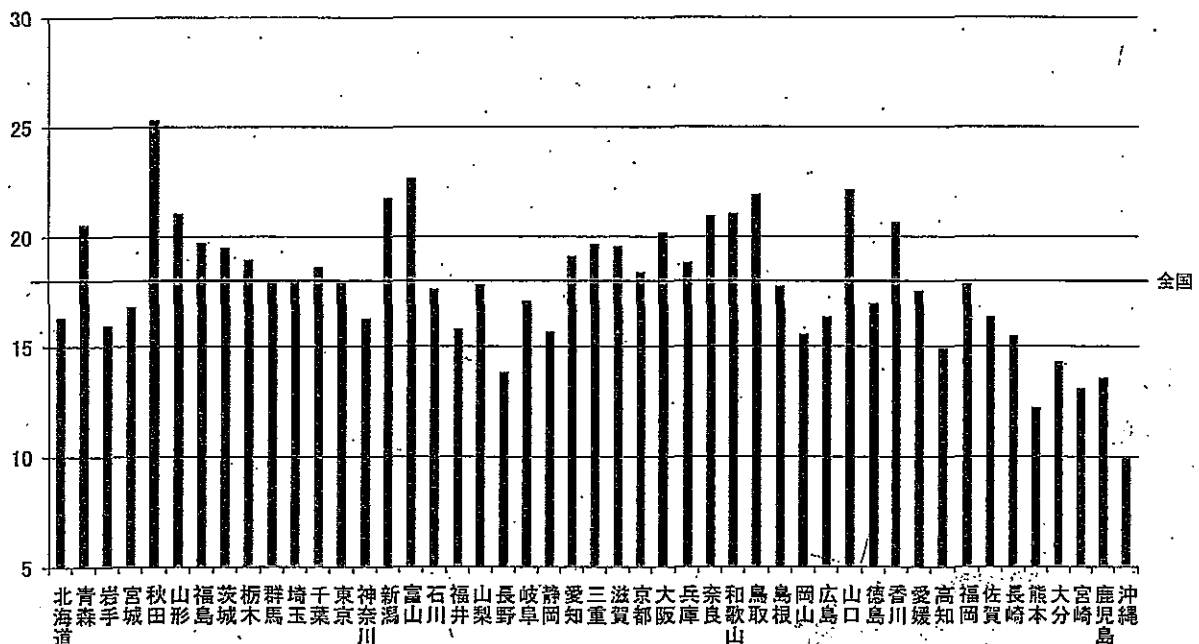
第12回がん対策推進協議会

7

胃がん死亡率格差(男性)(2008年)

胃がん死亡率
男性

人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

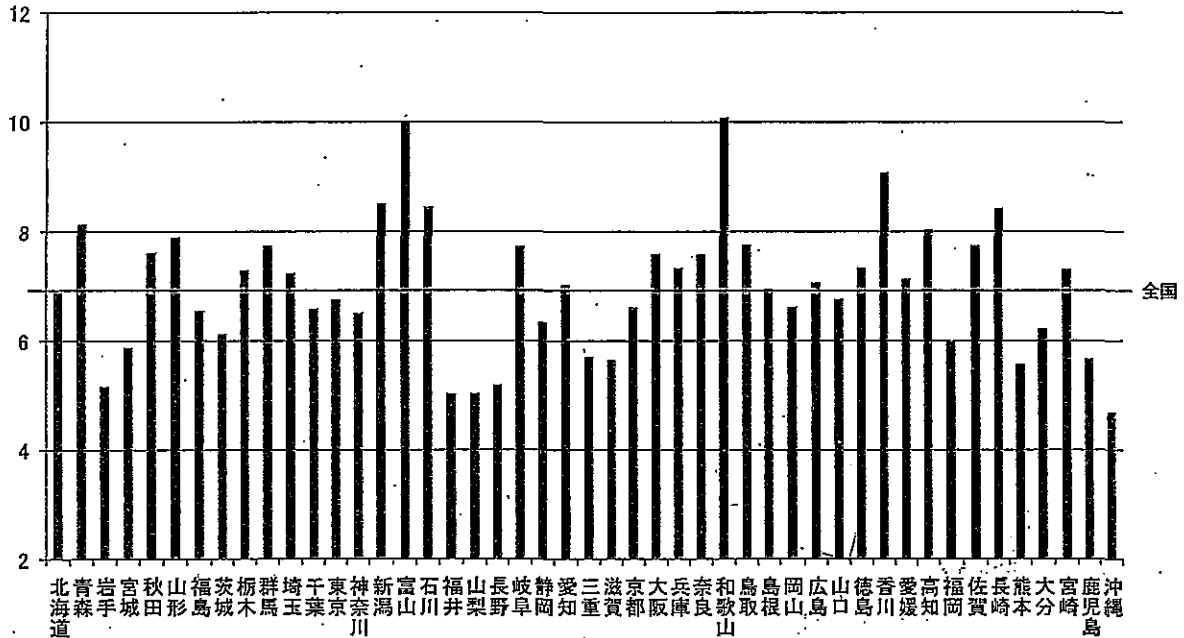
第12回がん対策推進協議会

-416-

8

胃がん死亡率
女性

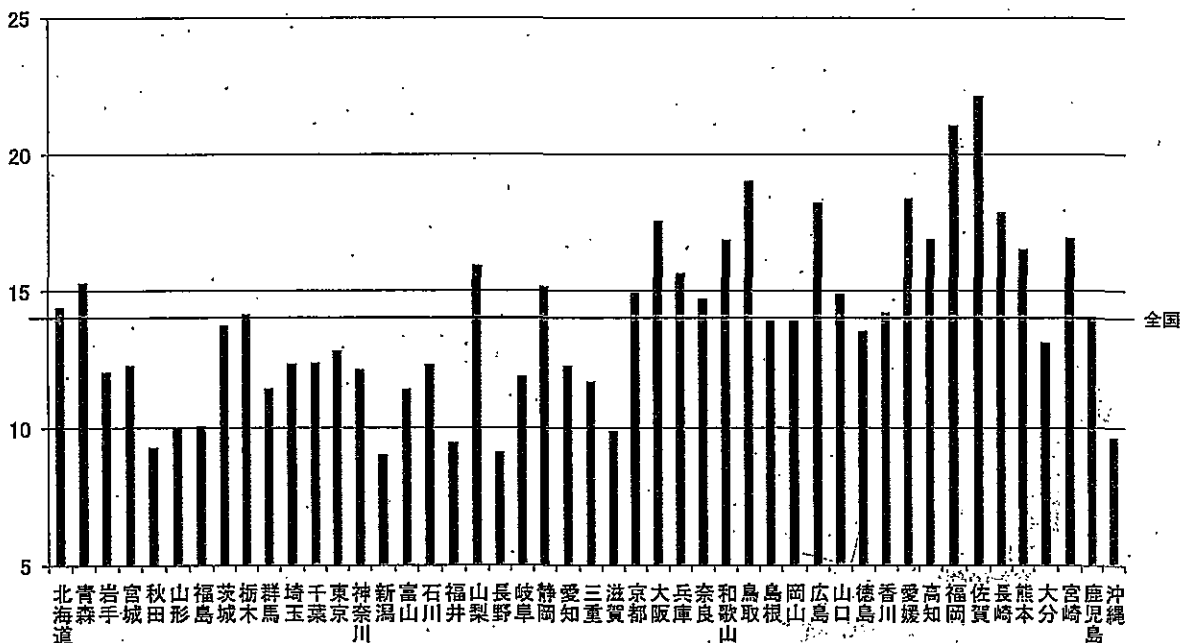
胃がん死亡率格差(女性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

肝臓がん死亡率
男性

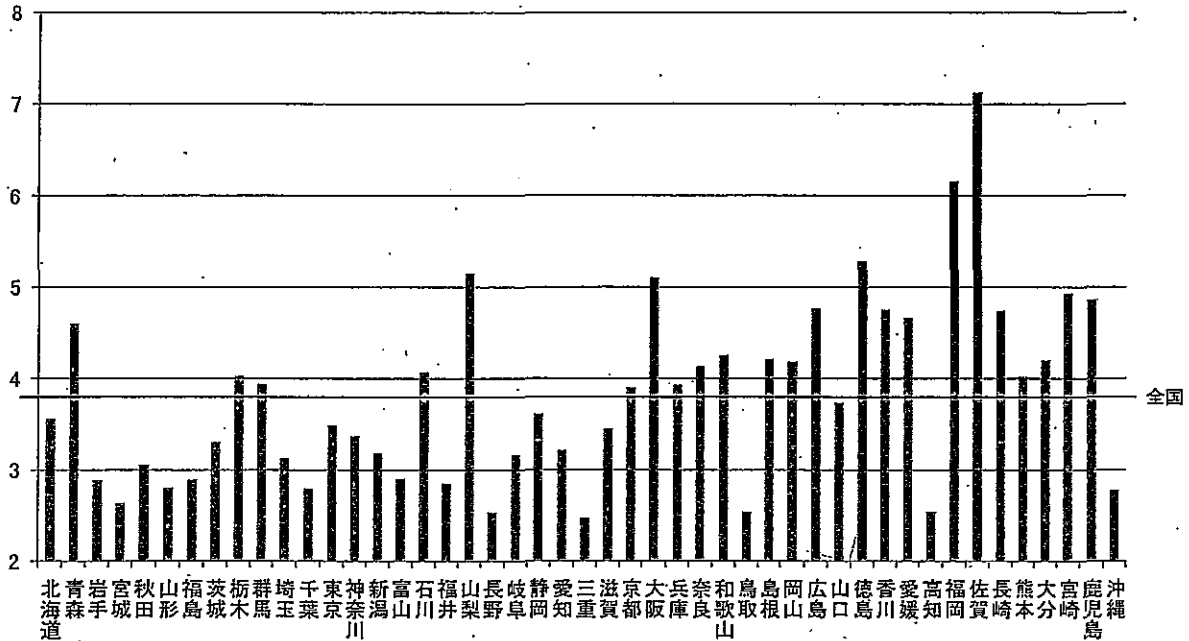
肝臓がん死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

肝臓がん死亡率
率・女性

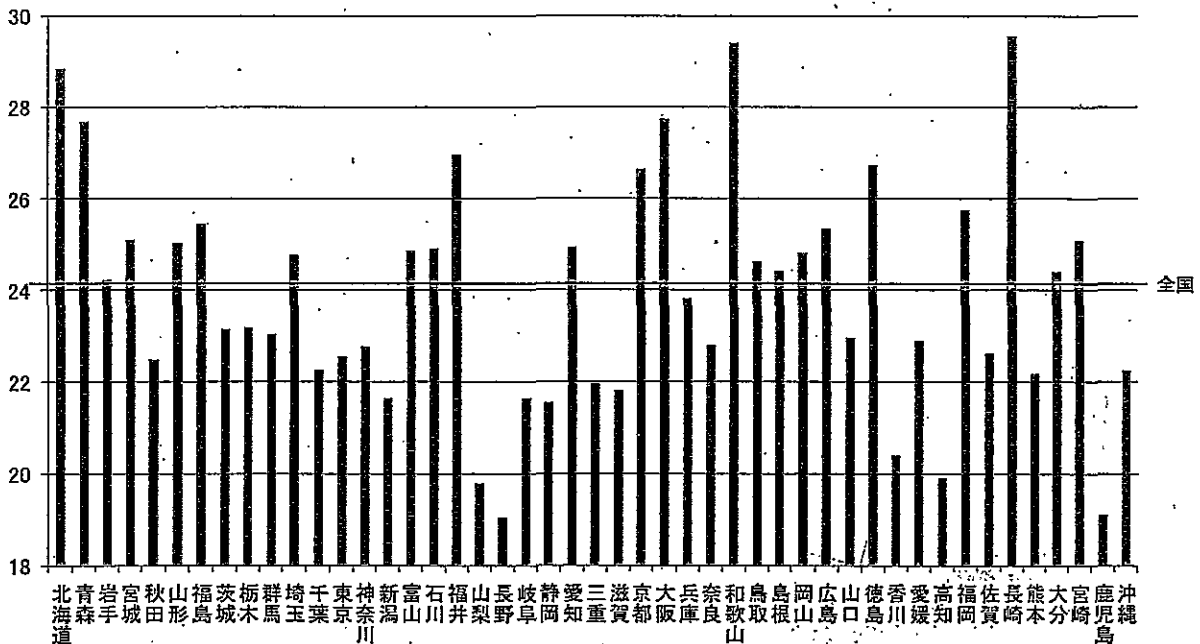
肝臓がん死亡率格差(女性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

肺がん死亡率
率・男性

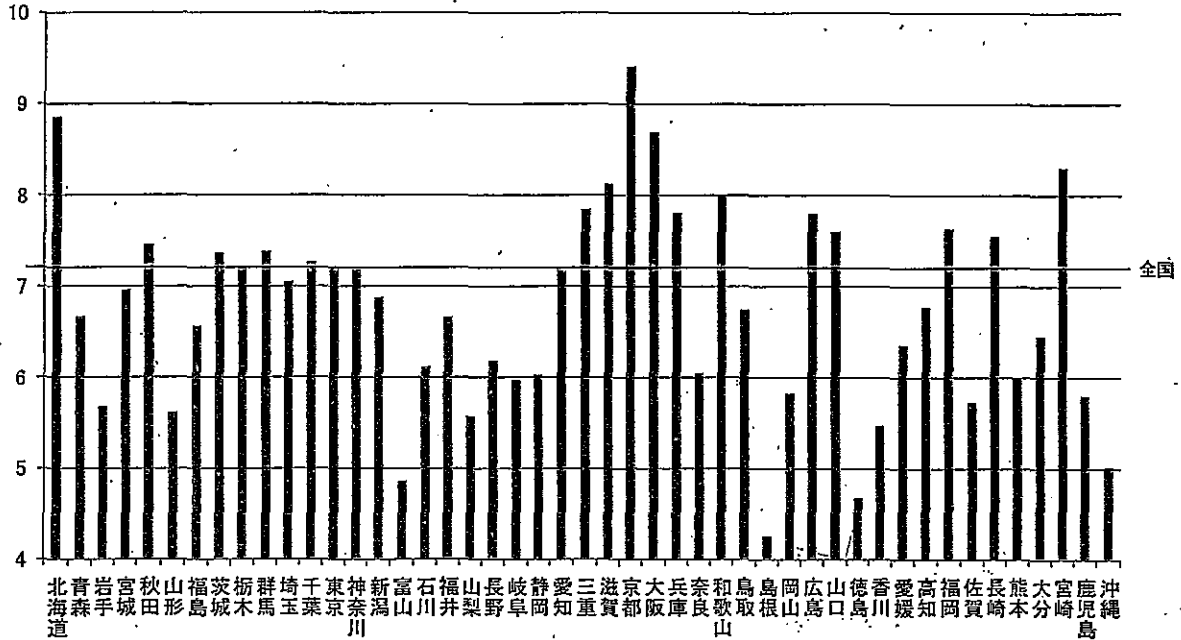
肺がん死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

肺がん死亡率
女性

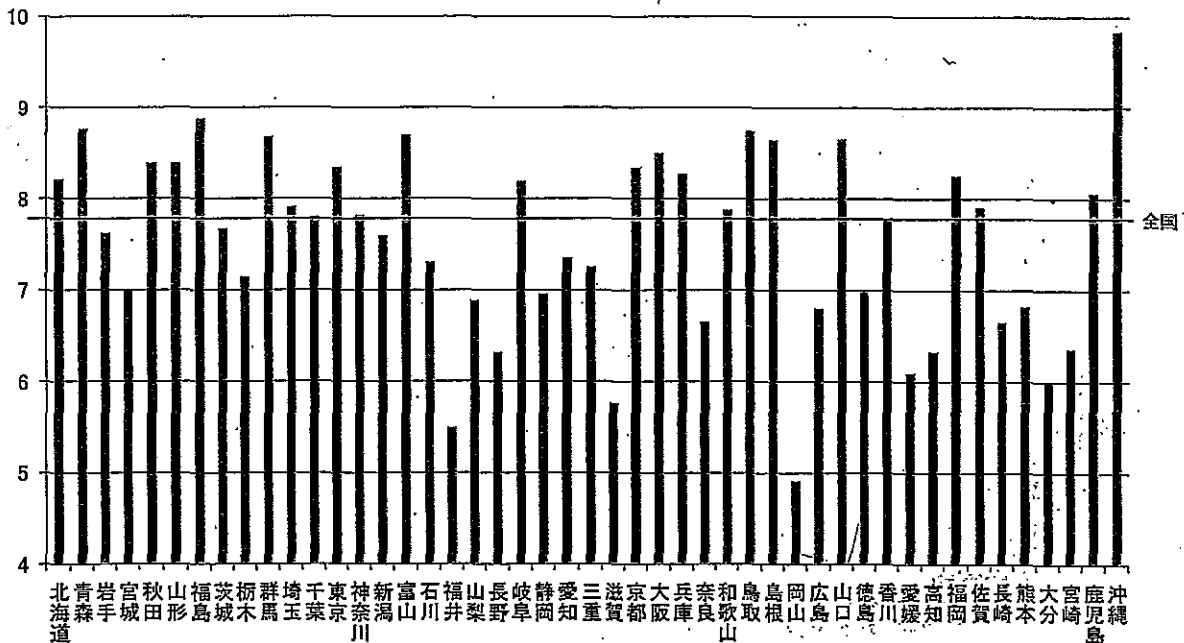
肺がん死亡率格差(女性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

結腸がん死亡率
男性

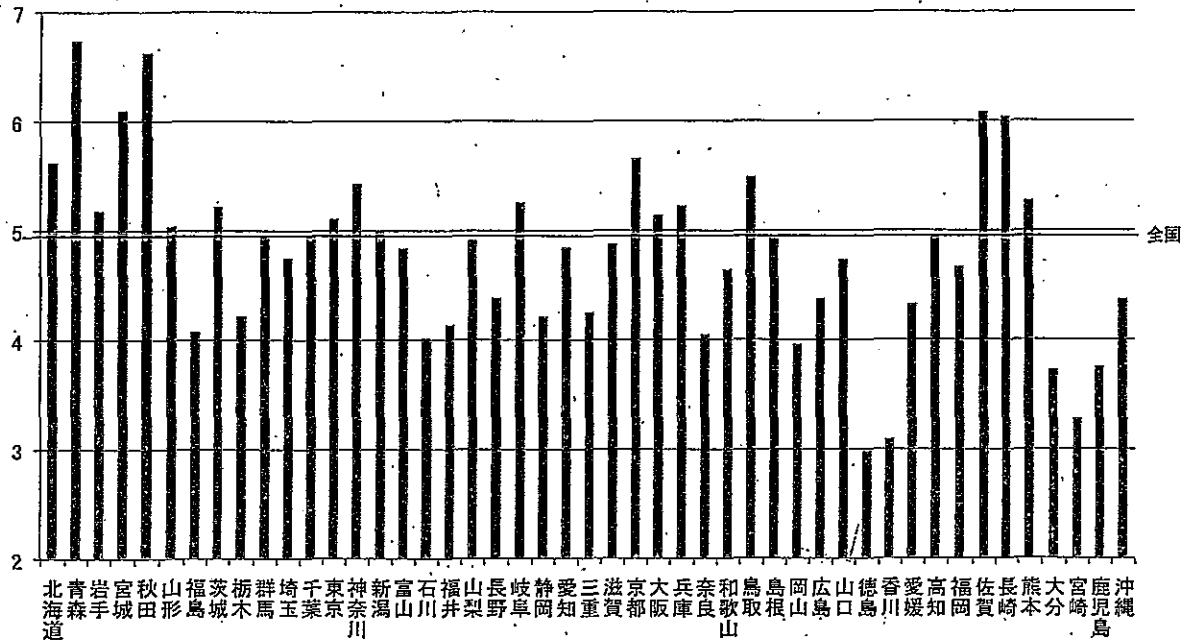
結腸がん死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

結腸がん死亡率
率・女性

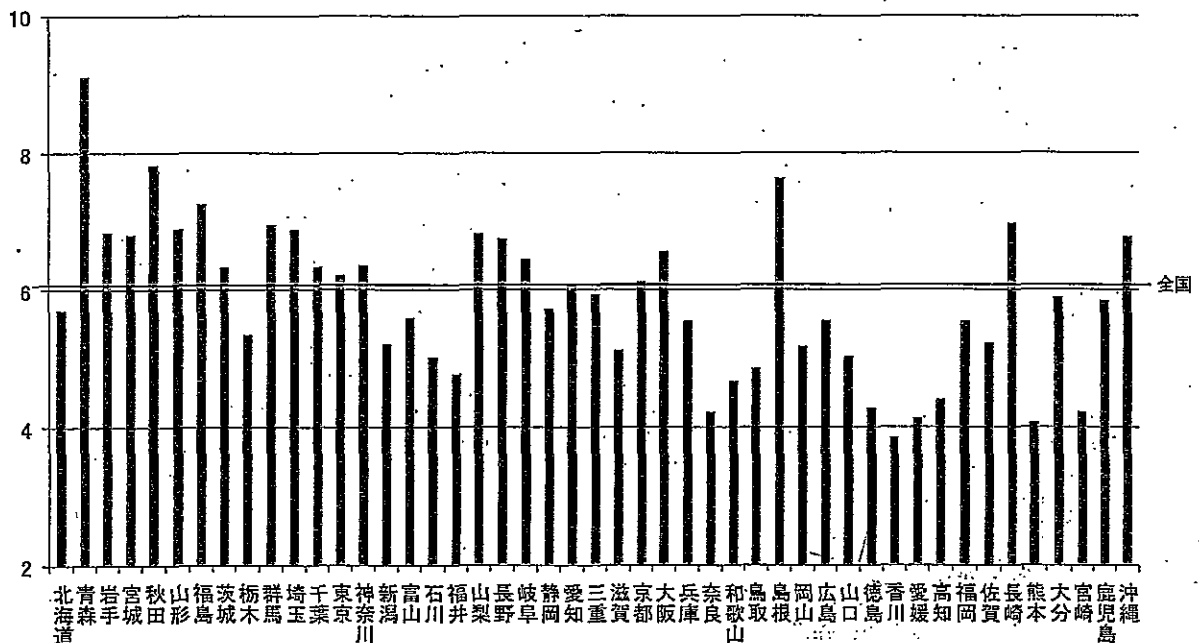
結腸がん死亡率格差(女性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構がん政策情報センター

直腸がん死亡率
率・男性

直腸がん死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済

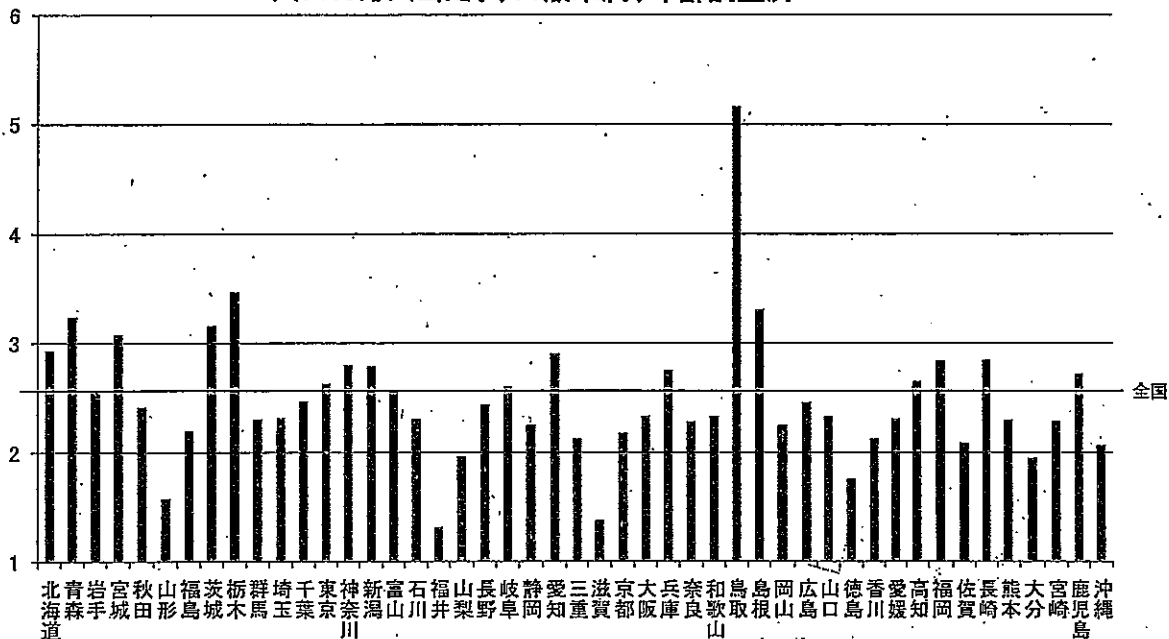


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構がん政策情報センター

直腸がん死亡率
率・女性

直腸がん死亡率格差(女性)(2008年)

人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済

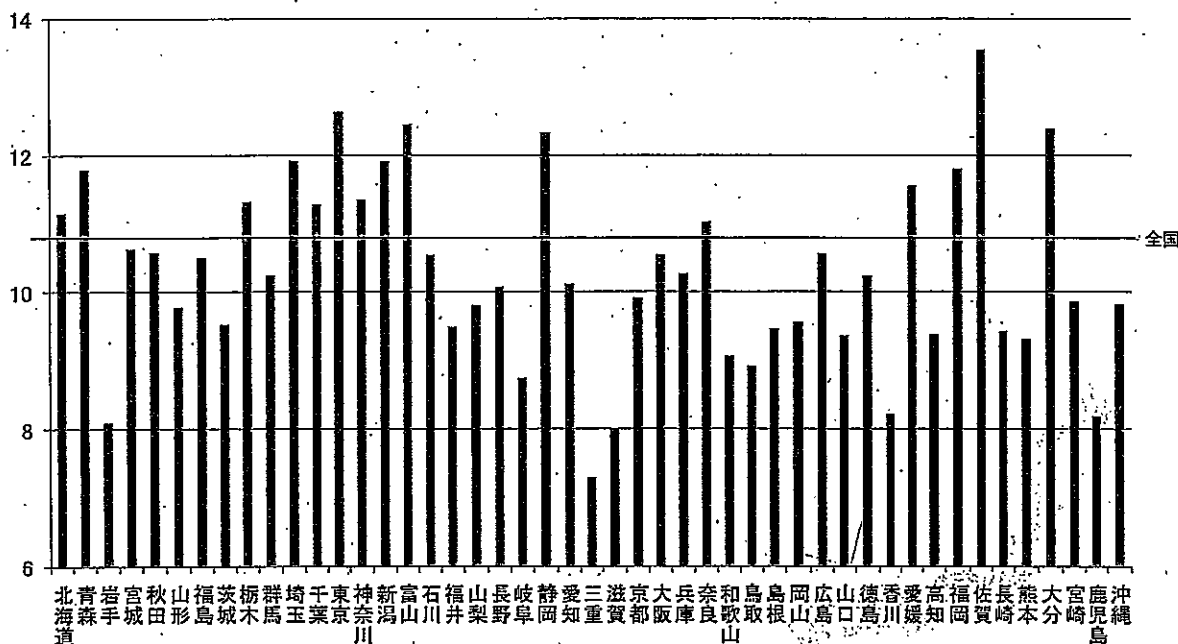


データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構がん政策情報センター

乳がん死亡率
率・女性

乳がん死亡率格差(2008年)

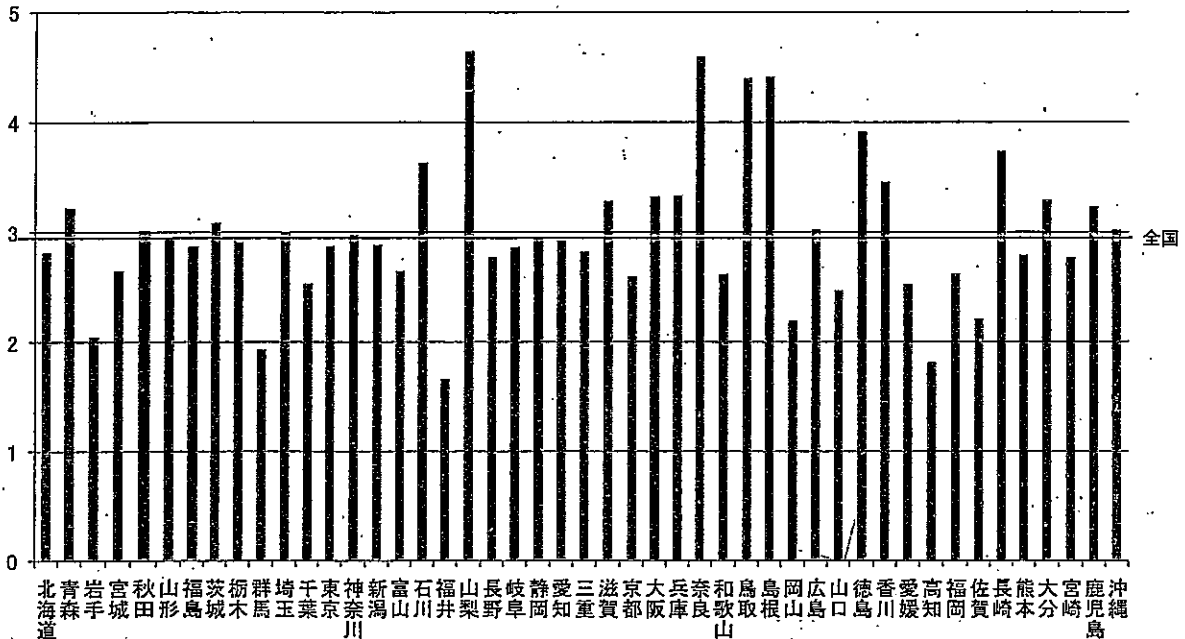
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構がん政策情報センター

悪性リンパ腫死
亡率・男性

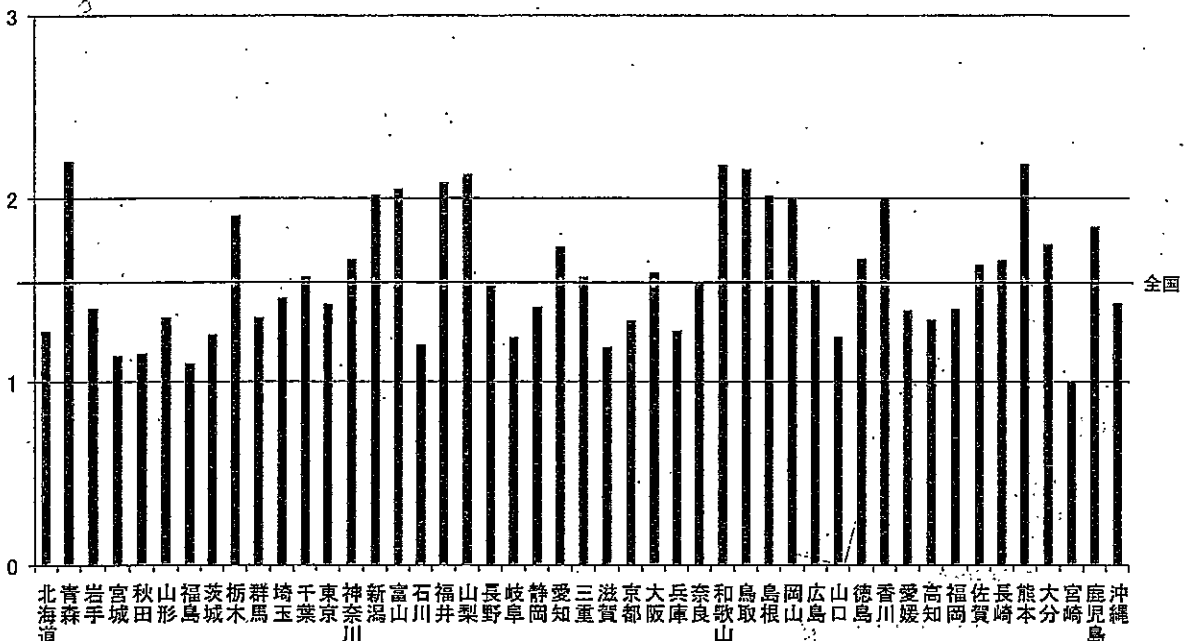
悪性リンパ腫死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

悪性リンパ腫死
亡率・女性

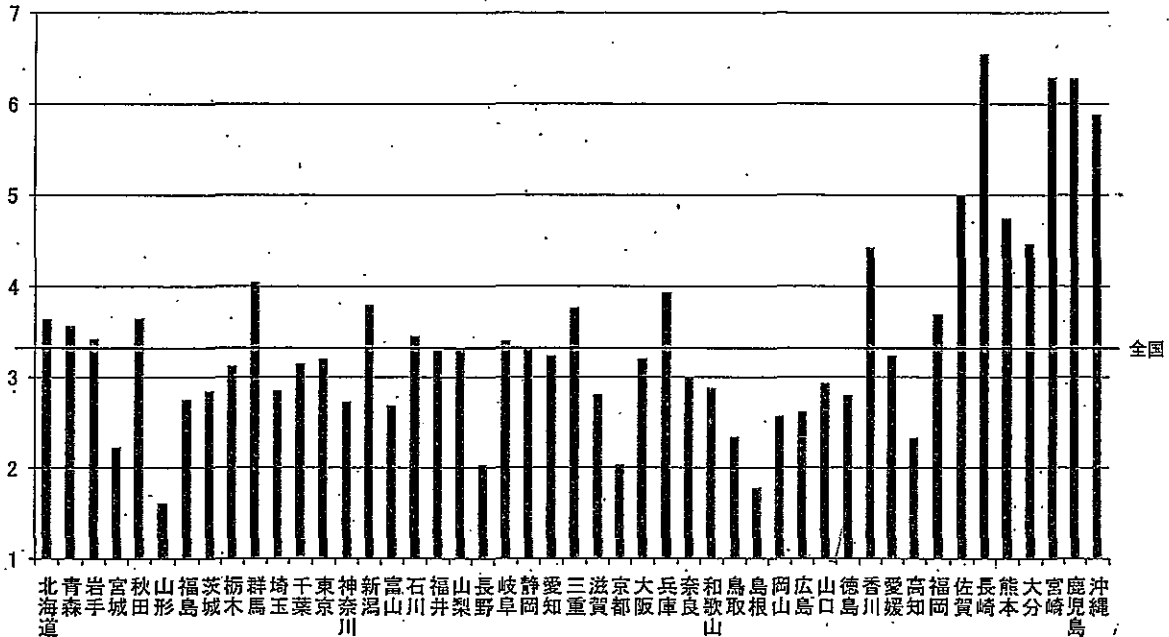
悪性リンパ腫死亡率格差(女性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

白血病死亡率・
男性

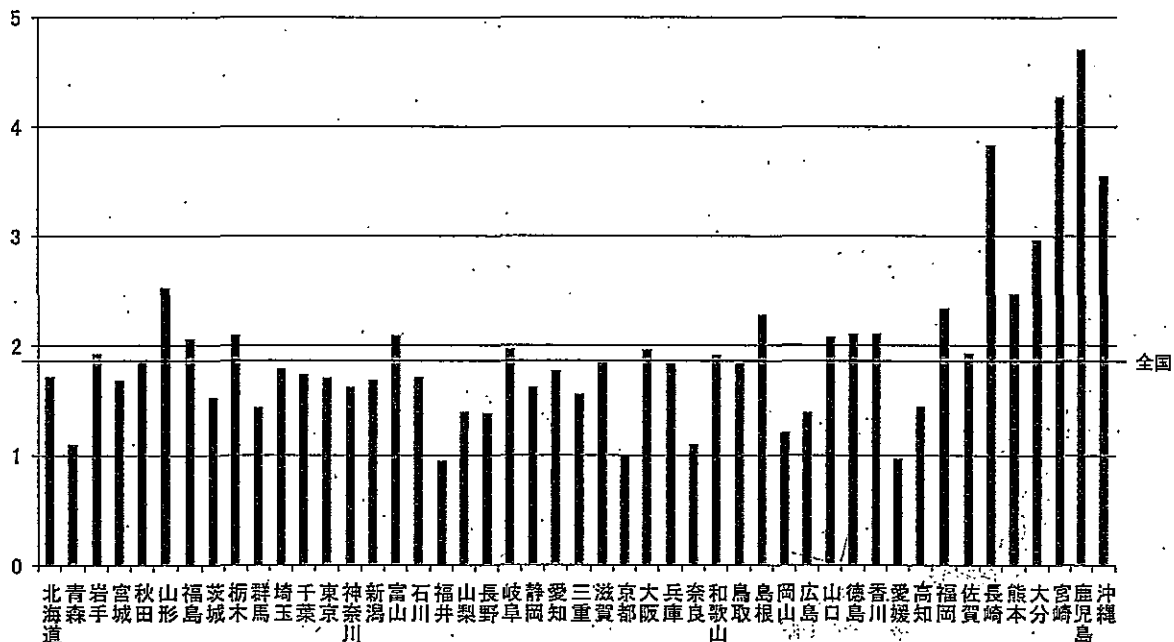
白血病死亡率格差(男性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

白血病死亡率・
女性

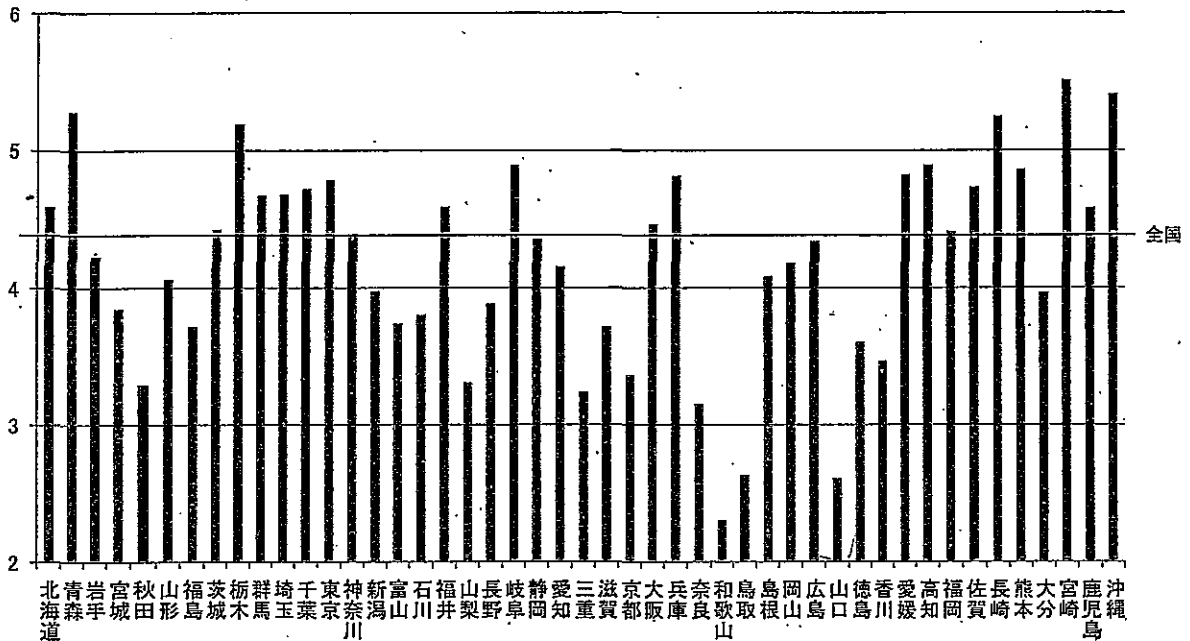
白血病死亡率格差(女性)(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

子宮がん死亡
率・女性

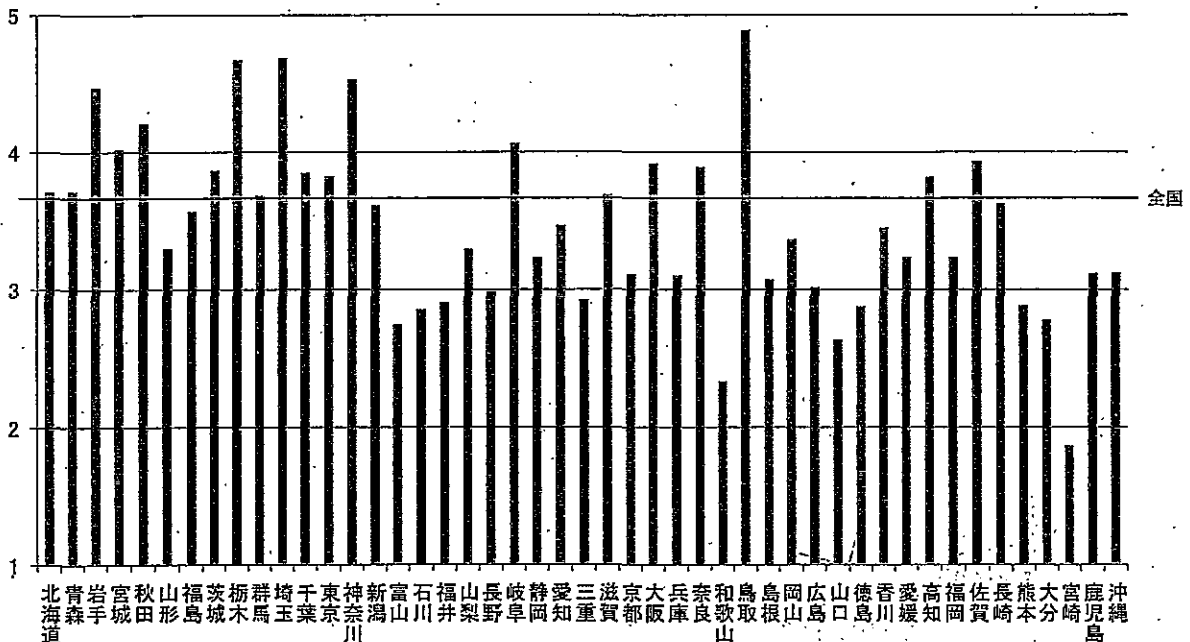
子宮がん死亡率格差(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

卵巣がん死亡
率・女性

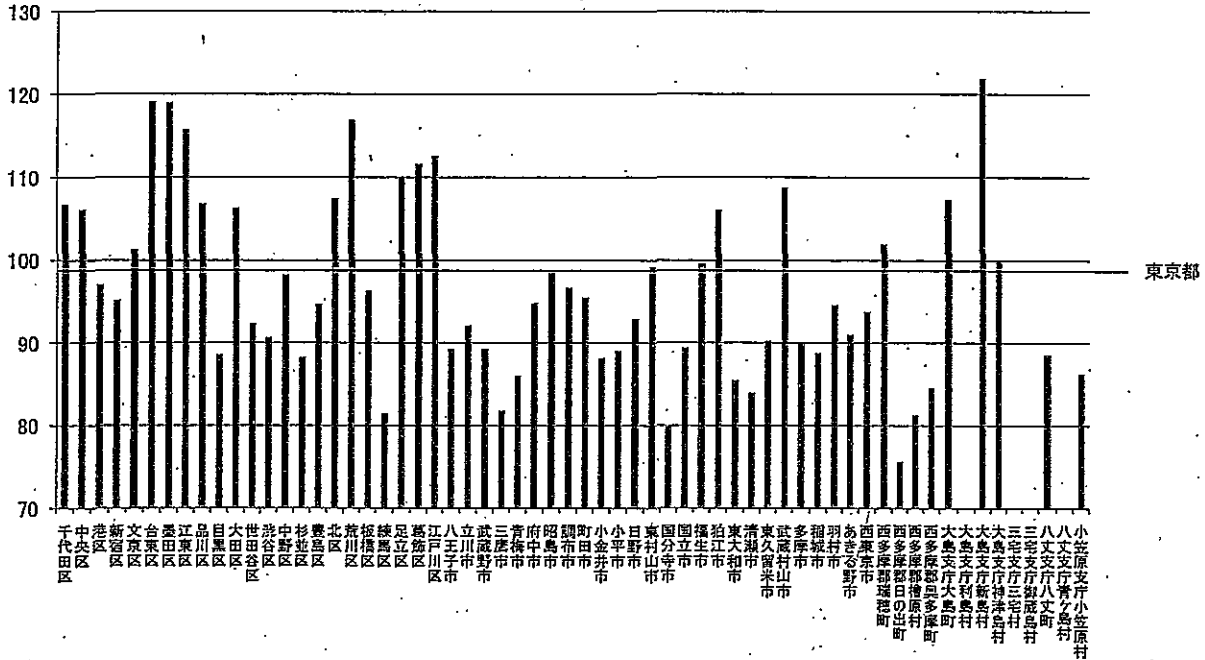
卵巣がん死亡率格差(2008年)
人口10万人当たり、75歳未満、年齢調整済



データソース：人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：国立がんセンターがん対策情報センター
加工：日本医療政策機構 がん政策情報センター

東京都 市区町村別 標準化死亡比
がん総数(男性)(2003年~2007年)

標準化死亡比・がん
総数・東京都・男性

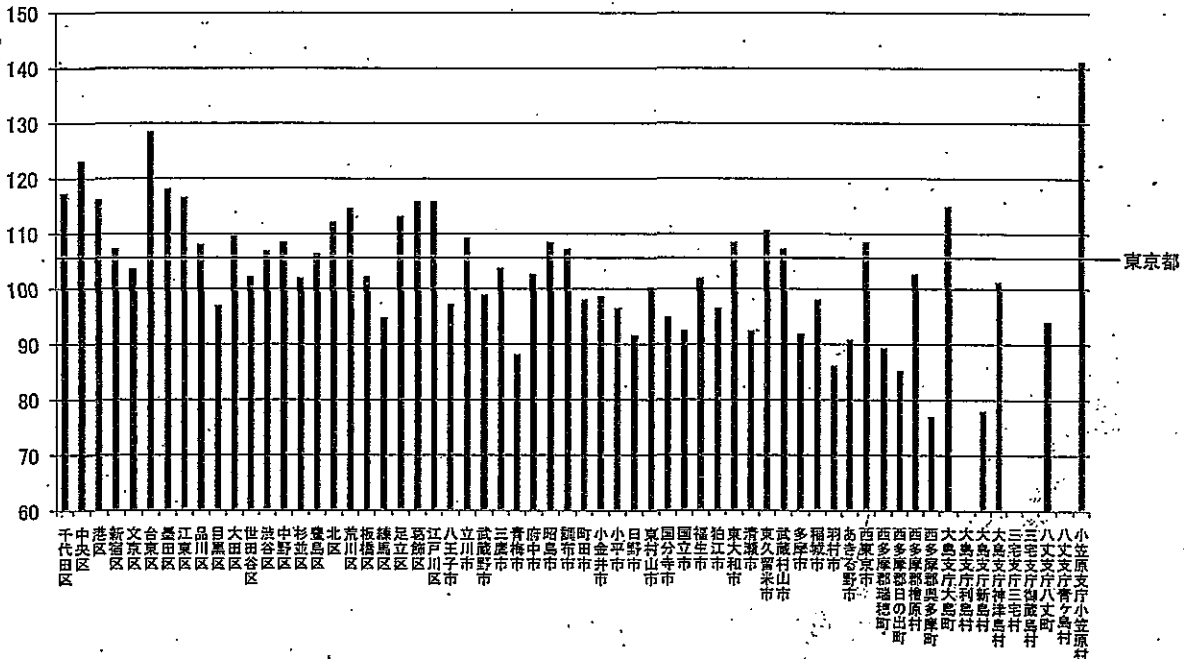


データソース:平成15年~平成19年人口動態保健所・市区町村別統計
(厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課)
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

(※)大島支庁利島村、三宅支庁三宅村・御蔵島村、
八丈支庁青ヶ島村はデータなし

東京都 市区町村別 標準化死亡比
がん総数(女性)(2003年~2007年)

標準化死亡比・がん
総数・東京都・女性

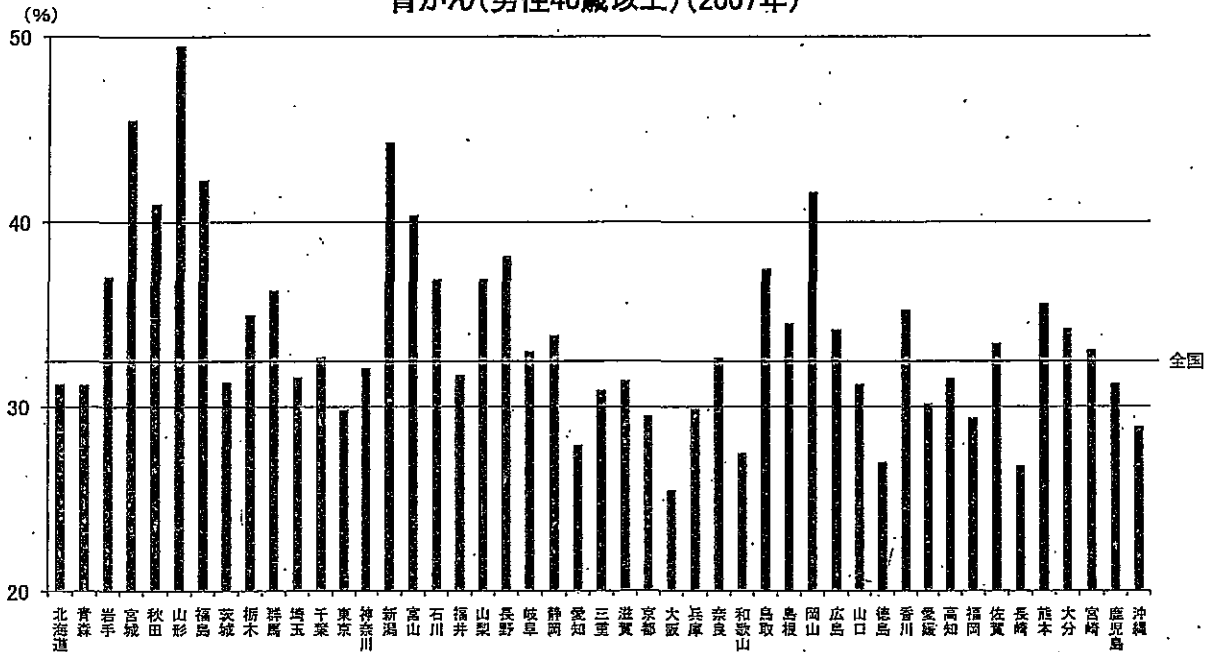


データソース:平成15年~平成19年人口動態保健所・市区町村別統計
(厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課)
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

(※)大島支庁利島村、三宅支庁三宅村・御蔵島村、
八丈支庁青ヶ島村はデータなし

胃がん検診率
男性

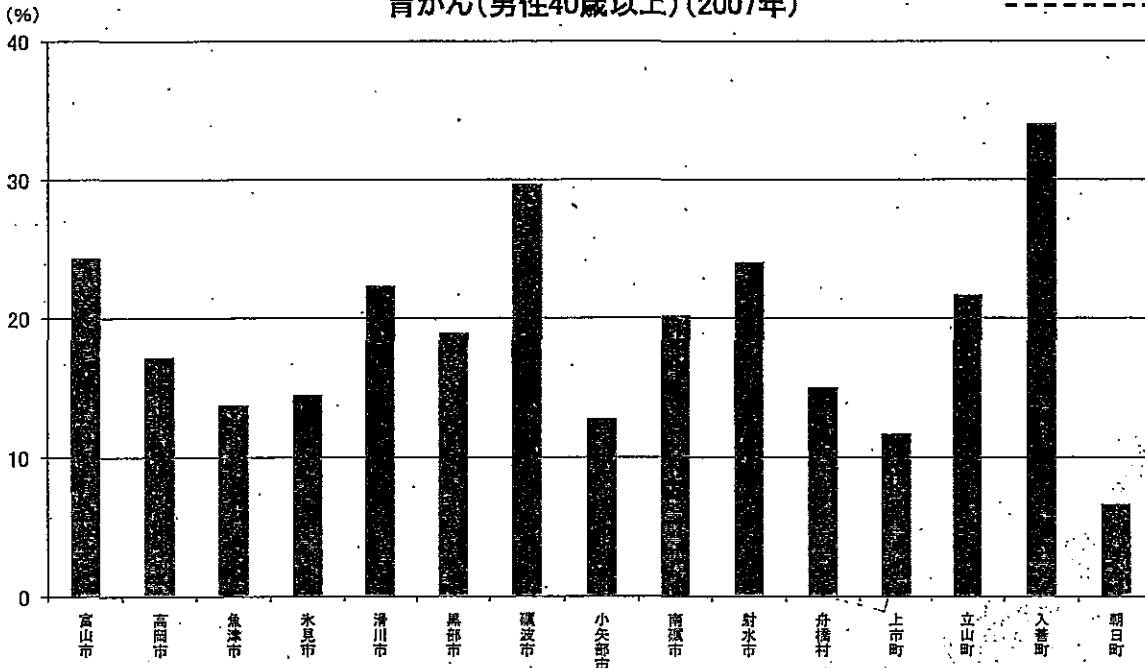
都道府県別 検診率 胃がん(男性40歳以上)(2007年)



データソース: 国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典: 国立がんセンターがん対策情報センター
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

胃がん検診率
男性・富山

富山県 市区町村別 検診率 胃がん(男性40歳以上)(2007年)

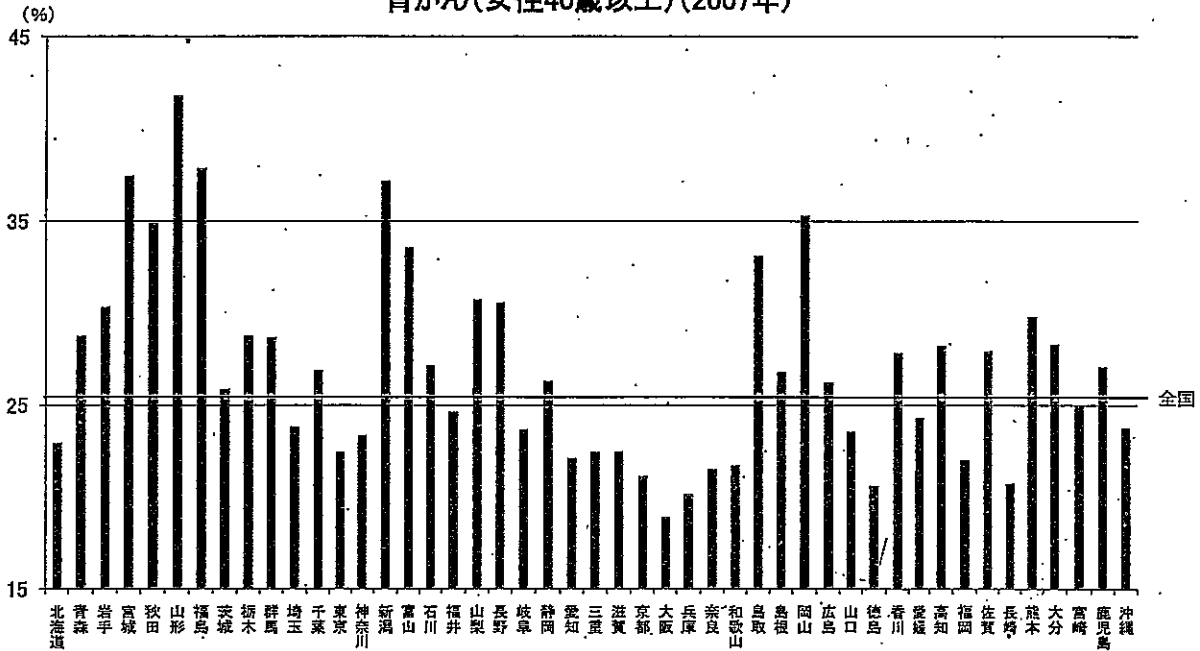


データソース: 平成19年度地域保健・老人保健事業報告、
平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]
出典: 厚生労働省調べ
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

当該都道府県は、「都別がん死亡率の都道府県の特徴
75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、
当該部位において死亡率1位と記載されている。

胃がん検診率
女性

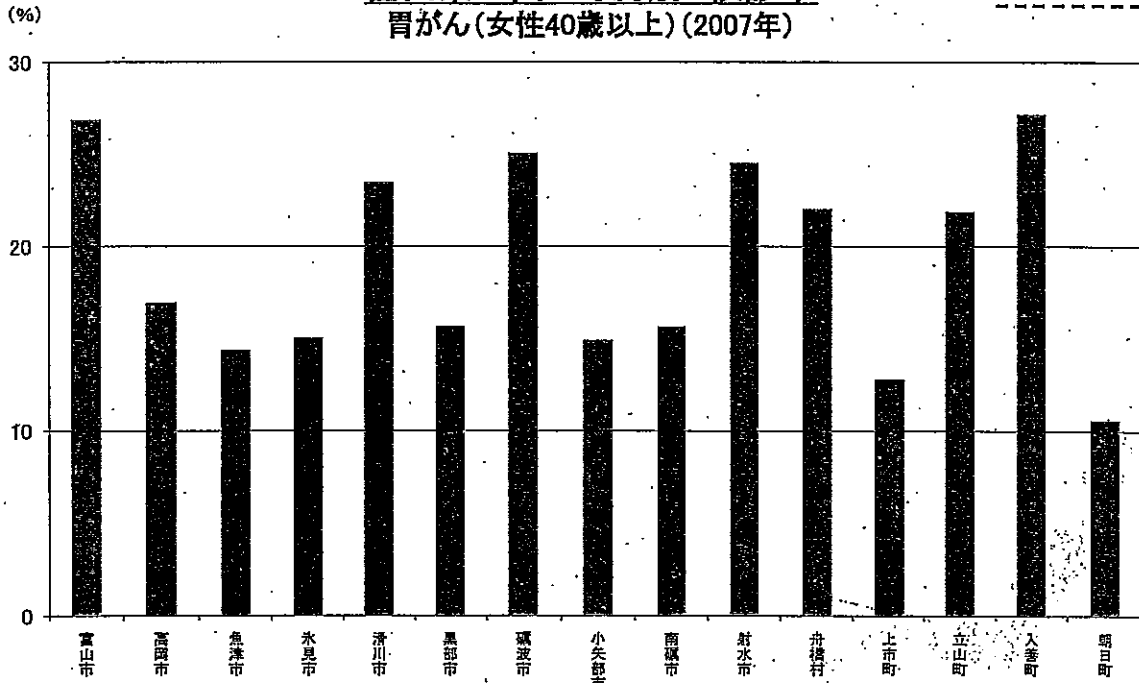
都道府県別 検診率
胃がん(女性40歳以上)(2007年)



データソース: 国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典: 国立がんセンターがん対策情報センター
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

胃がん検診率
女性・富山

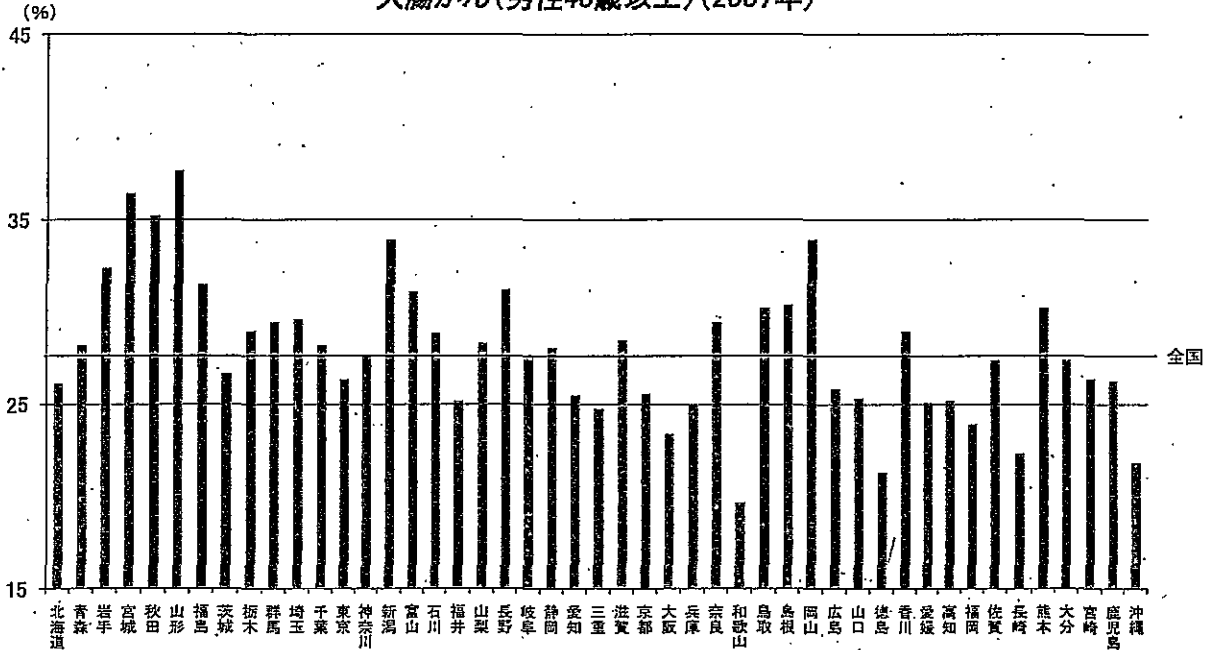
富山県 市区町村別 検診率
胃がん(女性40歳以上)(2007年)



データソース: 平成19年度地域保健・老人保健事業報告、平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]
出典: 厚生労働省調べ
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

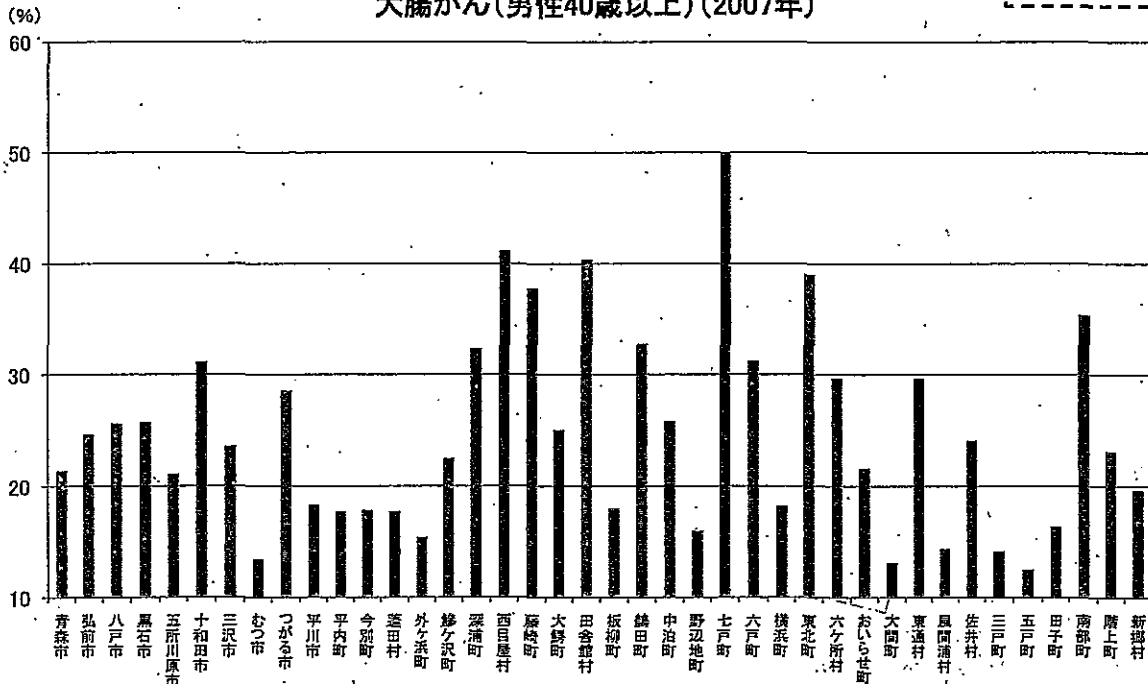
当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、当該部位において死亡率1位と記載されている。

都道府県別 検診率
大腸がん(男性40歳以上)(2007年)



データベース: 国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典: 国立がんセンターがん対策情報センター
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

青森県 市区町村別 検診率
大腸がん(男性40歳以上)(2007年)

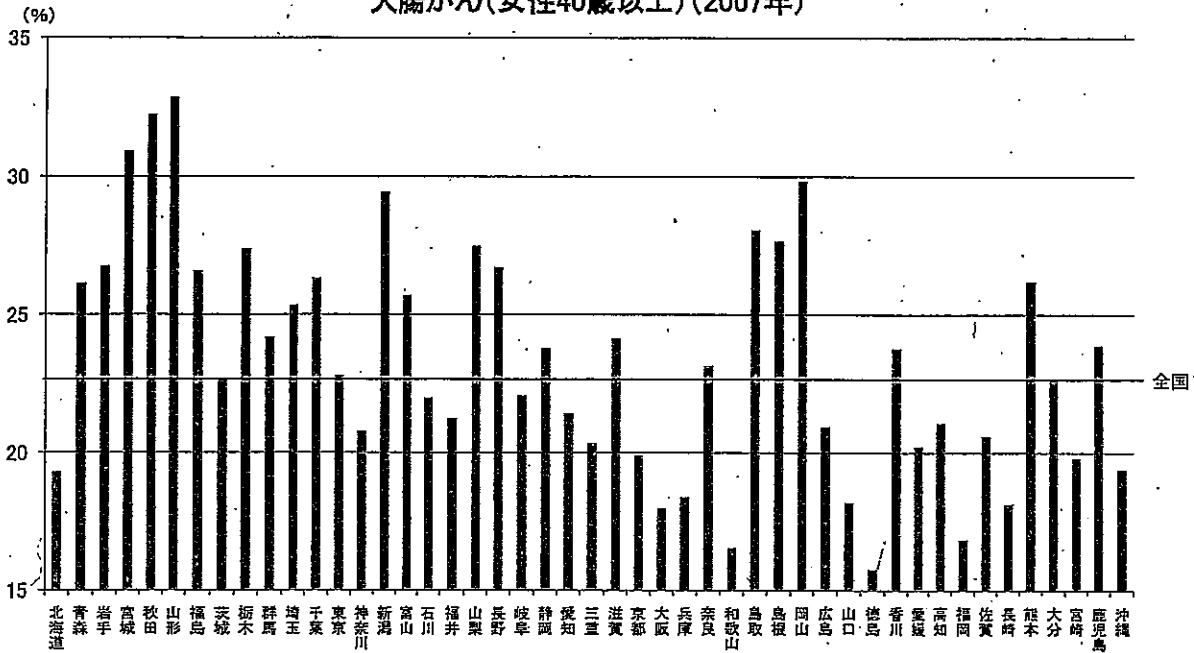


データベース: 平成19年度地域保健・老人保健事業報告、
平成17年国勢調査(平成17年10月1日現在)
出典: 厚生労働省調べ
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴
75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、
当該部位において死亡率1位と記載されている。

大腸がん検診率・女性

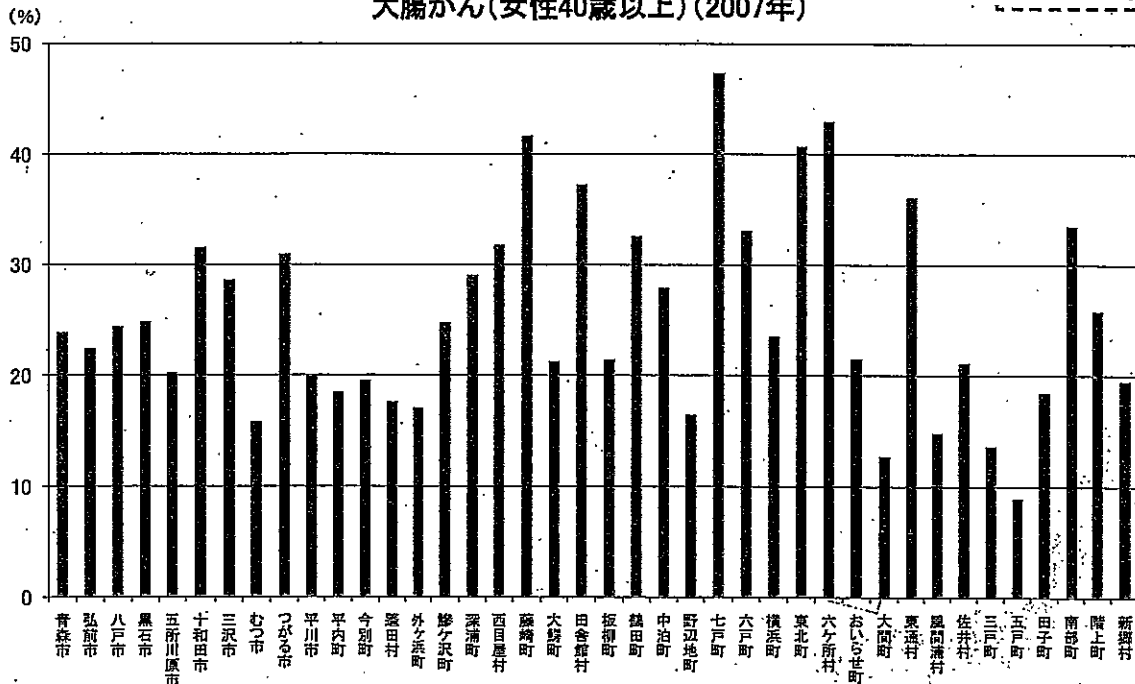
都道府県別 検診率
大腸がん(女性40歳以上)(2007年)



データソース:国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典:国立がんセンターがん対策情報センター
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

大腸がん検診率・女性・青森

青森県 市区町村別 検診率
大腸がん(女性40歳以上)(2007年)

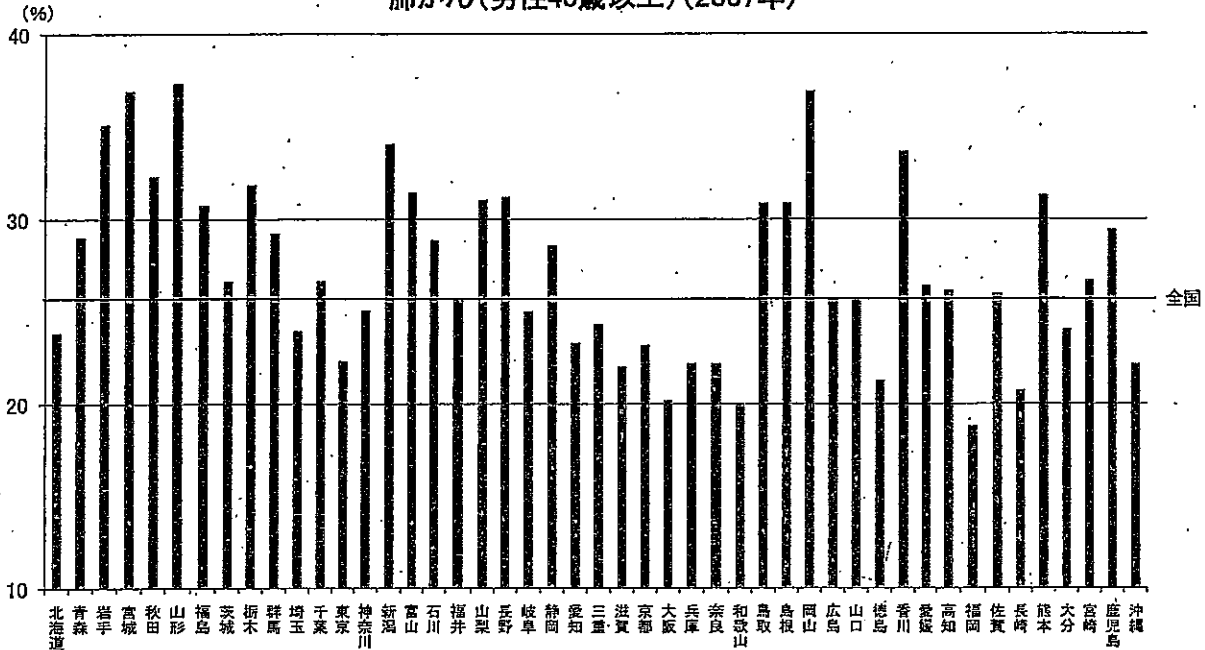


データソース:平成19年度地域保健・老人保健事業報告、平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]
出典:厚生労働省調べ
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、当該部位において死亡率1位と記載されている。

肺癌検診率
男性

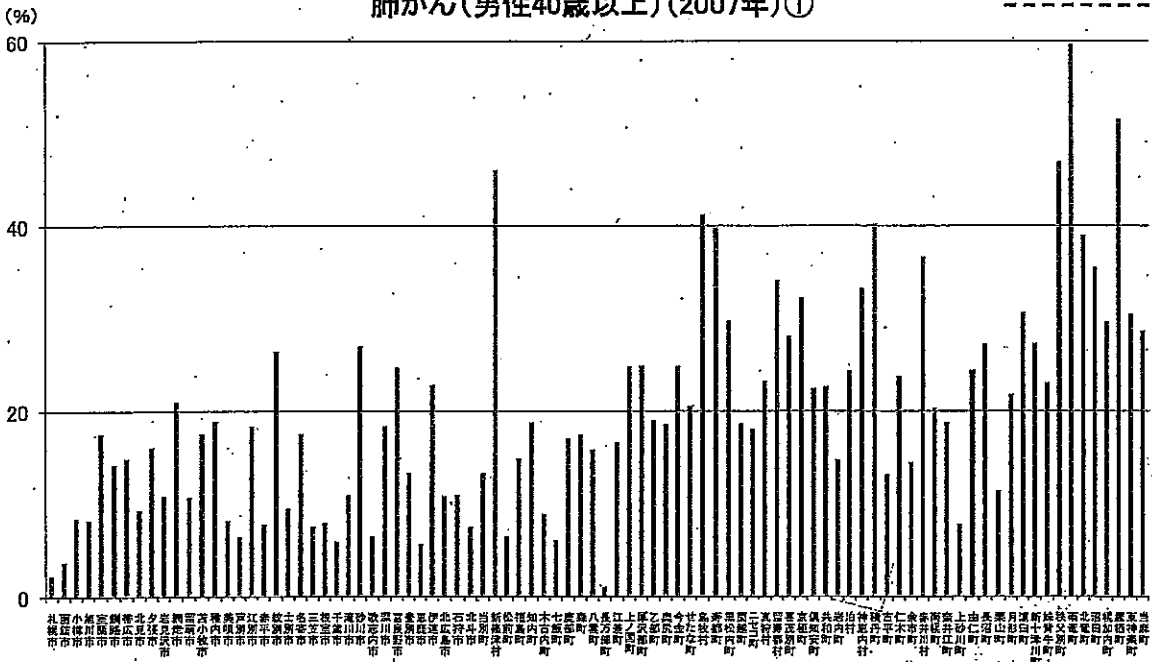
都道府県別 検診率
肺癌(男性40歳以上)(2007年)



データソース:国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典:国立がんセンターがん対策情報センター
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

肺癌検診率
男性・北海道①

北海道 市区町村別 検診率
肺癌(男性40歳以上)(2007年)①



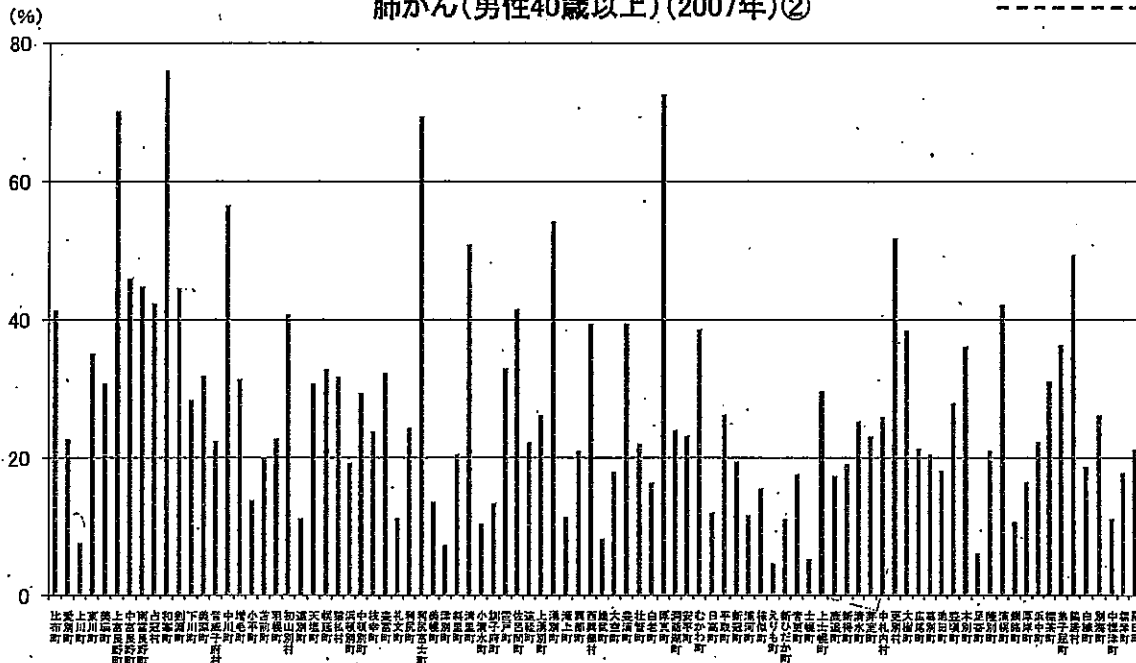
データソース:平成19年度地域保健・老人保健事業報告、
平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]

出典:厚生労働省調べ
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴」
75歳未満(2008年)」「第11回がん対策推進協議会資料より)において、
当該部位において死亡率1位と記載されている。

北海道 市区町村別 検診率 肺がん(男性40歳以上)(2007年)②

肺がん検診率
男性・北海道②



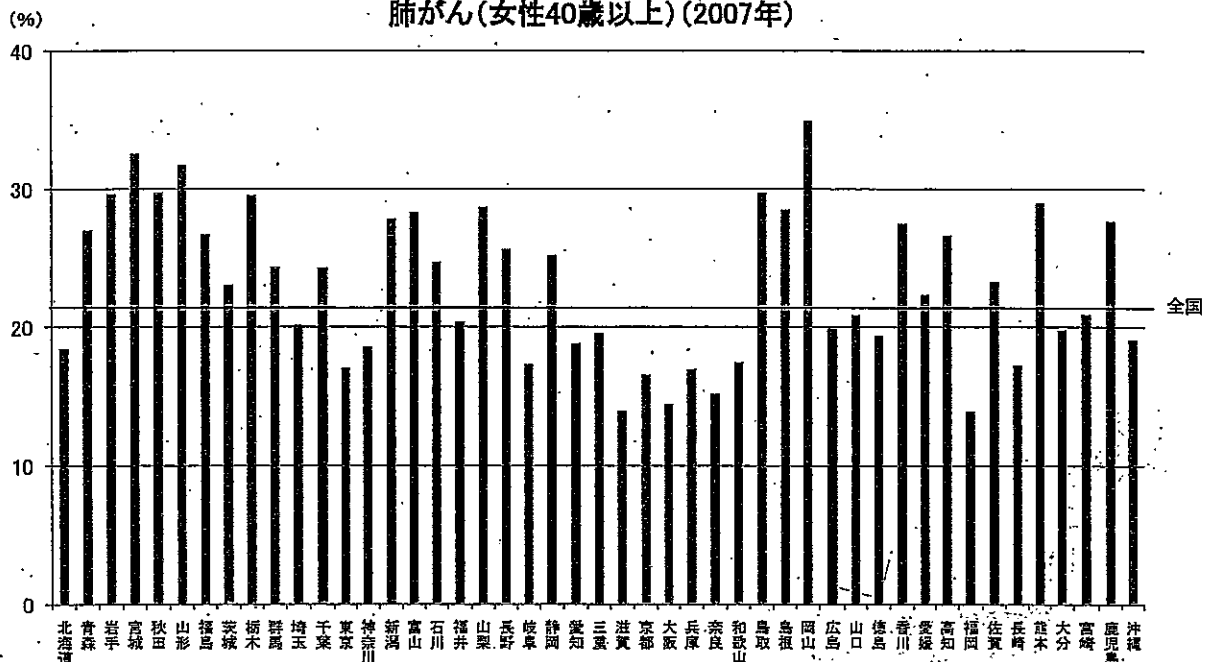
データソース:平成19年度地域保健・老人保健事業報告、
平成17年国勢調査(平成17年10月1日現在)

出典:厚生労働省調べ
加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴
75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、
当該部位において死亡率1位と記載されている。

都道府県別 検診率 肺がん(女性40歳以上)(2007年)

肺がん検診率
女性



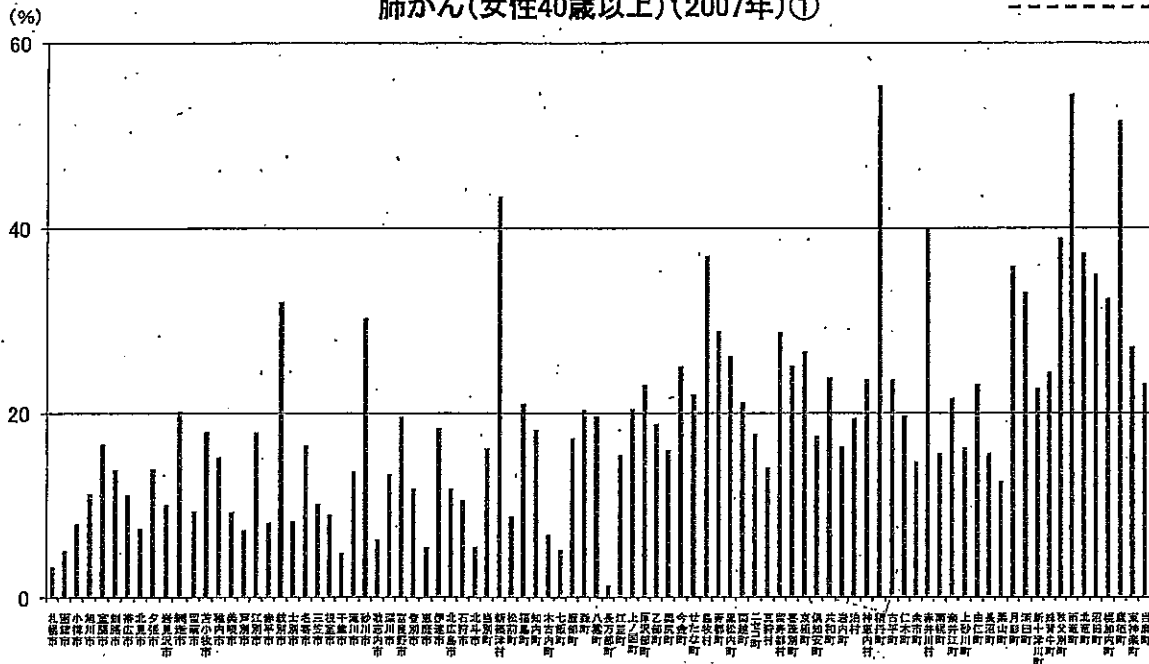
データソース:国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)

出典:国立がんセンターがん対策情報センター

加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

北海道 市区町村別 検診率 肺がん(女性40歳以上)(2007年)①

肺がん検診率・
女性・北海道①



データソース:平成19年度地域保健・老人保健事業報告、
平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]

出典:厚生労働省調べ

加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

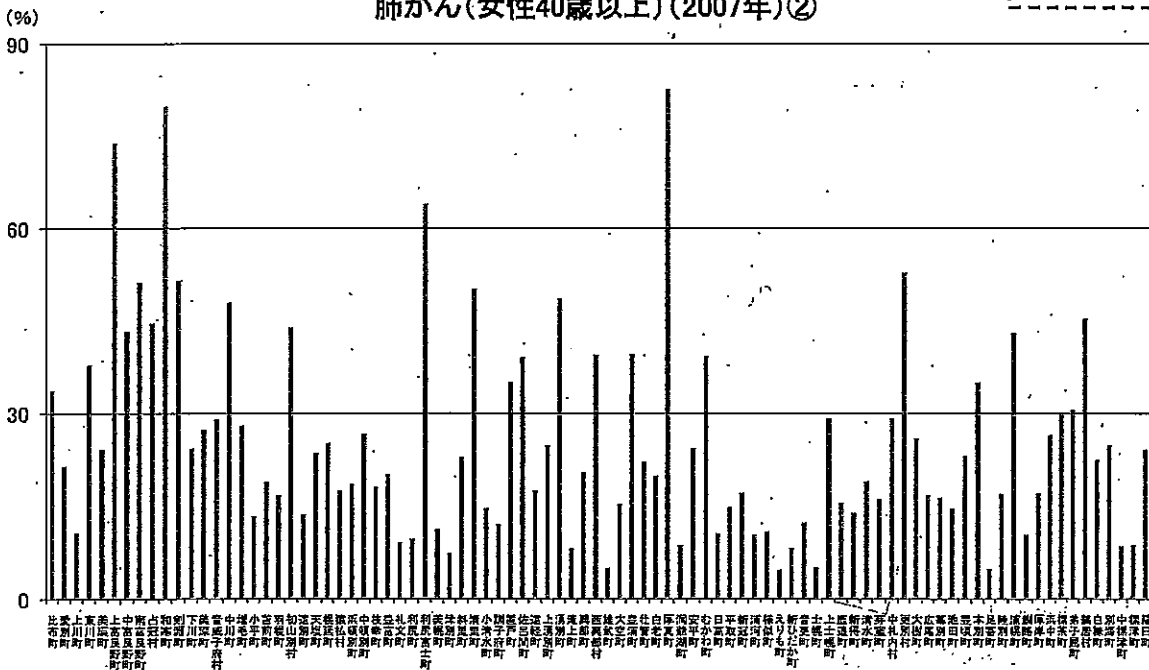
当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴
75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、
当該部位において死亡率1位と記載されている。

2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

第12回がん対策推進協議会

北海道 市区町村別 検診率 肺がん(女性40歳以上)(2007年)②

肺がん検診率・
女性・北海道②



データソース:平成19年度地域保健・老人保健事業報告、
平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]

出典:厚生労働省調べ

加工:日本医療政策機構 がん政策情報センター

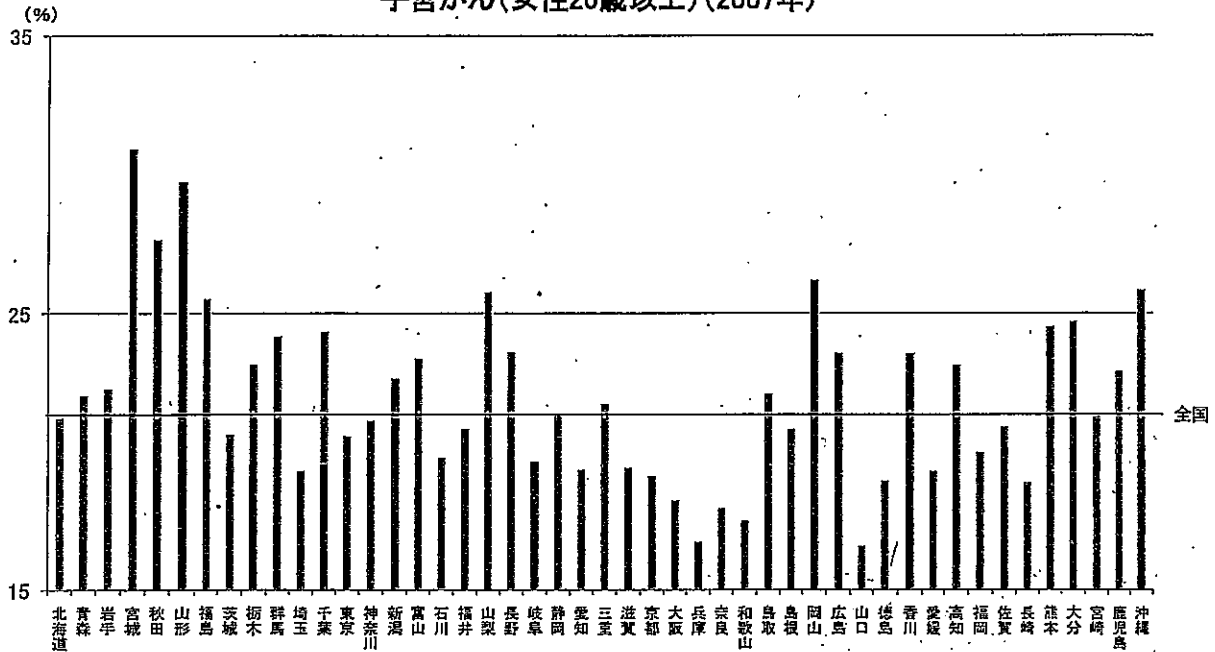
当該都道府県は、「部位別がん死亡率の都道府県の特徴
75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、
当該部位において死亡率1位と記載されている。

2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

第12回がん対策推進協議会

子宮がん検診
率・女性

都道府県別 検診率
子宮がん(女性20歳以上)(2007年)



データソース: 国民生活基礎調査(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典: 国立がんセンターがん対策情報センター
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

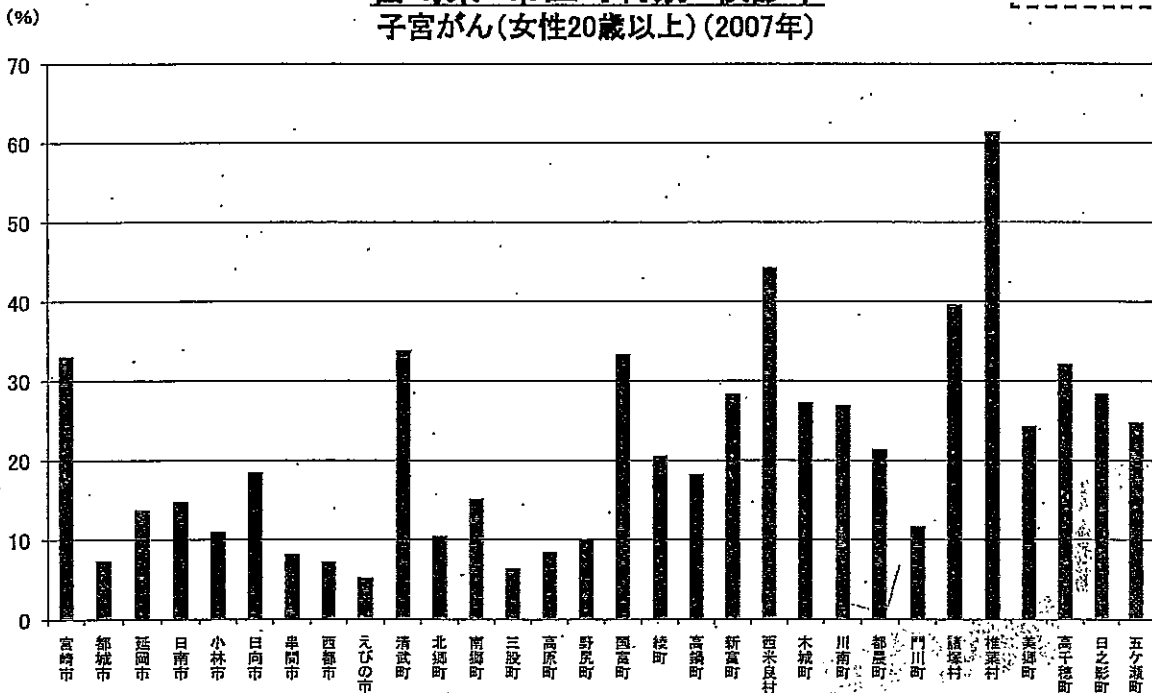
2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

第12回がん対策推進協議会

43

子宮がん検診
率・女性・宮崎

宮崎県 市区町村別 検診率
子宮がん(女性20歳以上)(2007年)



データソース: 平成19年度地域保健・老人保健事業報告、平成17年国勢調査[平成17年10月1日現在]
出典: 厚生労働省調べ
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

当該都道府県は、「都別がん死亡率の都道府県の特徴 75歳未満(2008年)」(第11回がん対策推進協議会資料より)において、当該部位において死亡率1位と記載されている。

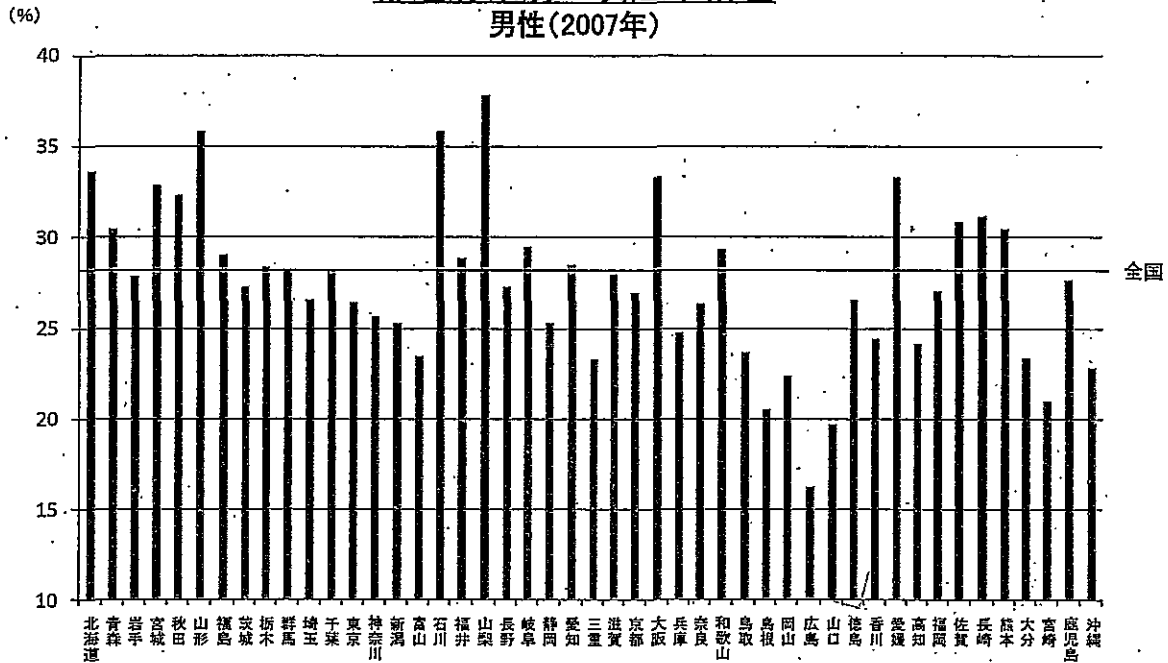
2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

第12回がん対策推進協議会

44

喫煙率・男性

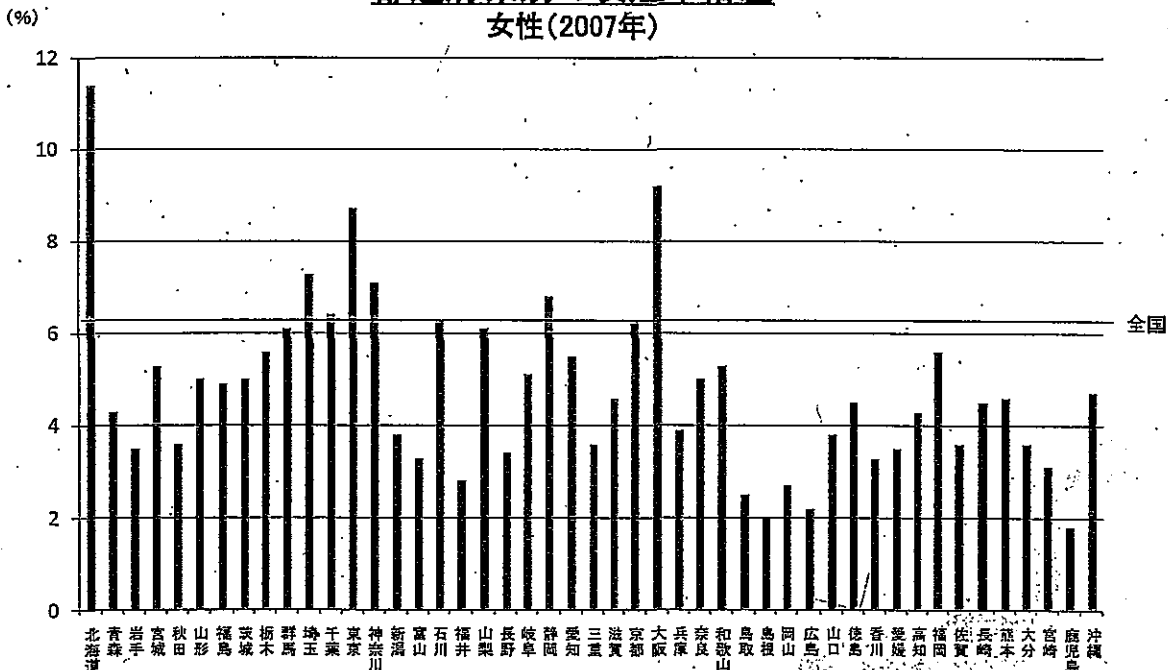
都道府県別の喫煙率格差
男性(2007年)



データソース：平成19年度地域保健・老人保健事業報告(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：厚生労働省「平成19年度地域保健・老人保健事業報告の概況」

喫煙率・女性

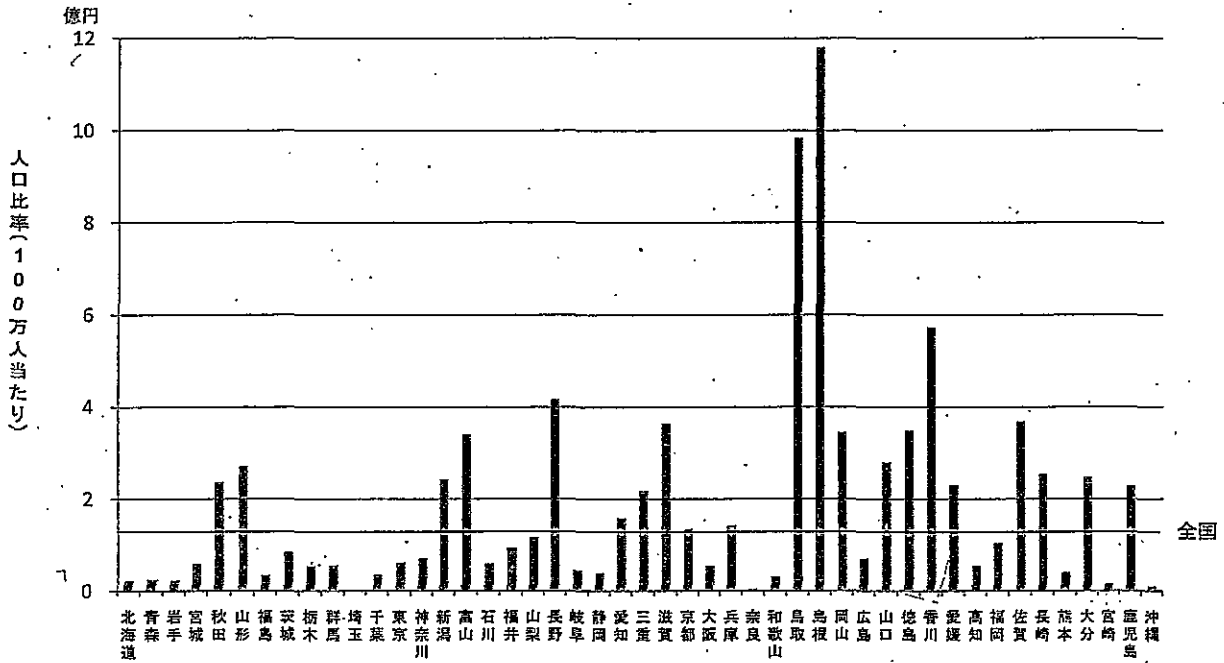
都道府県別の喫煙率格差
女性(2007年)



データソース：平成19年度地域保健・老人保健事業報告(厚生労働省大臣官房統計情報部)
出典：厚生労働省「平成19年度地域保健・老人保健事業報告の概況」

H19がん対策予算

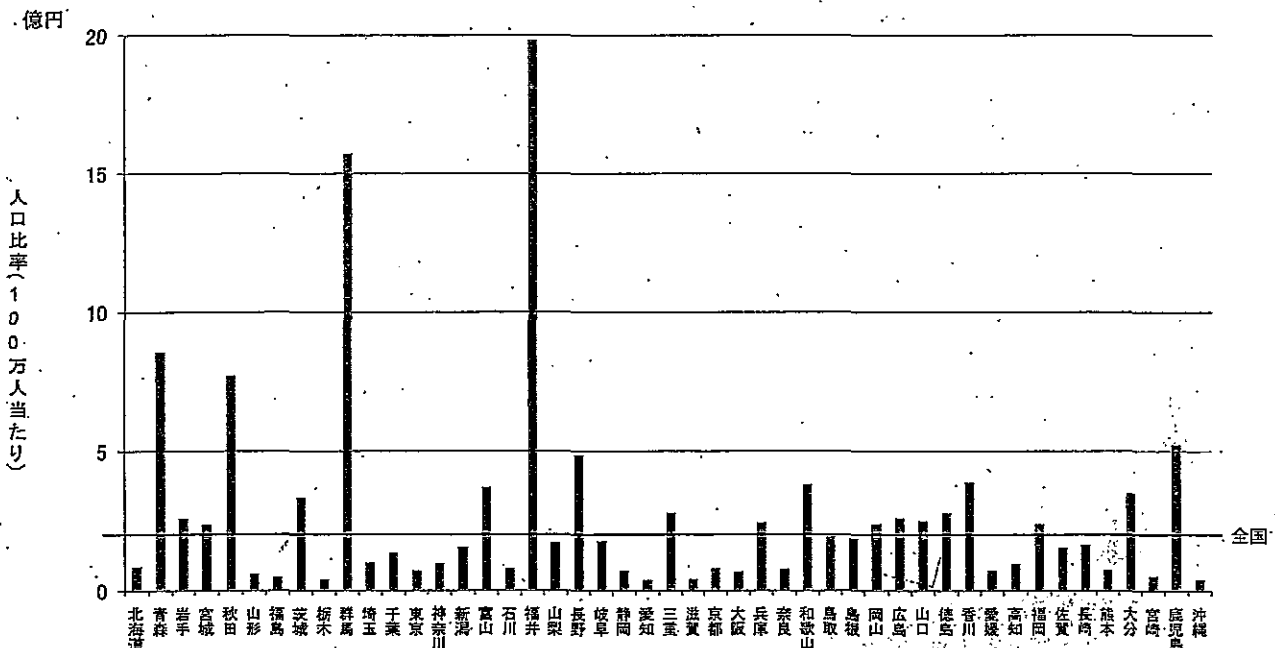
平成19年度都道府県がん対策予算(実績)



データソース: 第8回がん対策推進協議会 厚生労働省 配布資料
人口=2006年の人口、総務省推計人口より(2008年)

H20がん対策予算

平成20年度都道府県がん対策予算(実績)



データソース : 第11回がん対策推進協議会 厚生労働省 配布資料
人口=2008年の人口、総務省推計人口より(2009年)



医師・看護師数

2010/3/11

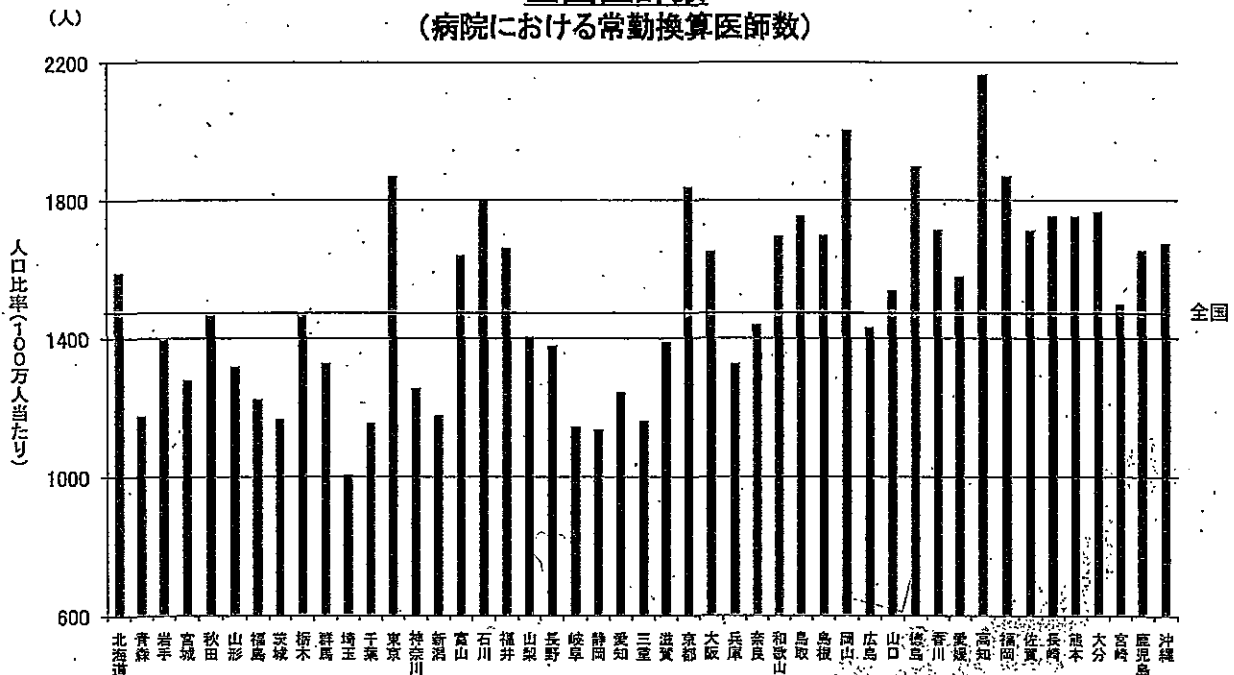
第12回がん対策推進協議会

49



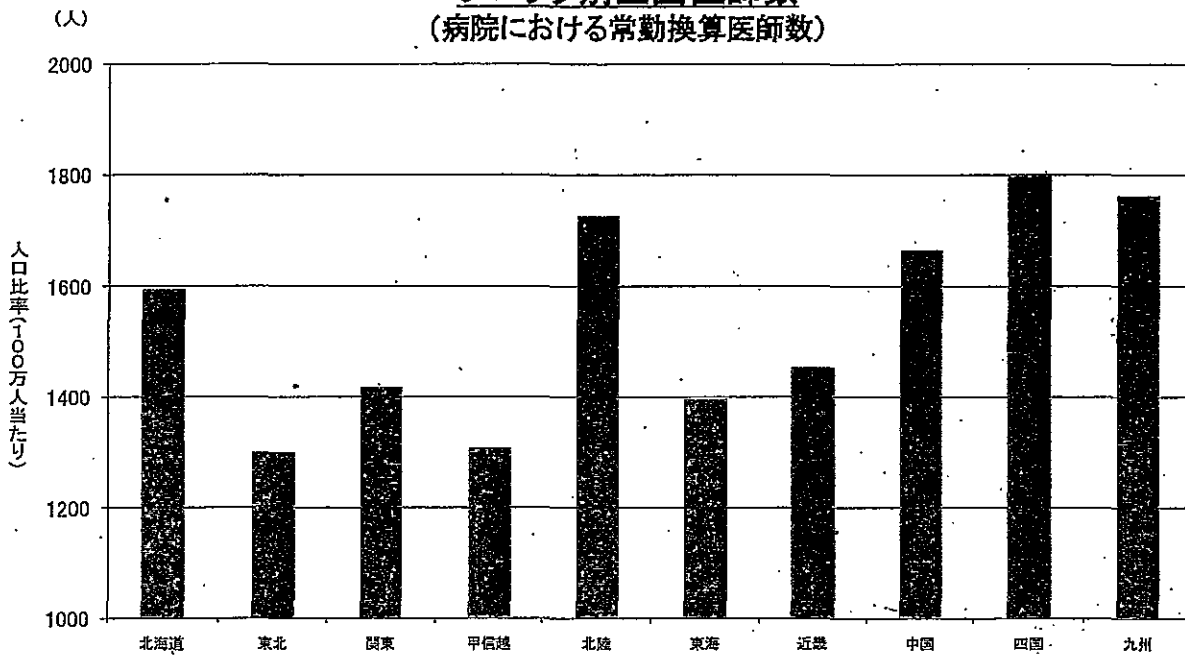
日本医療政策機構
Health Policy Institute, Japan

全国医師数 (病院における常勤換算医師数)



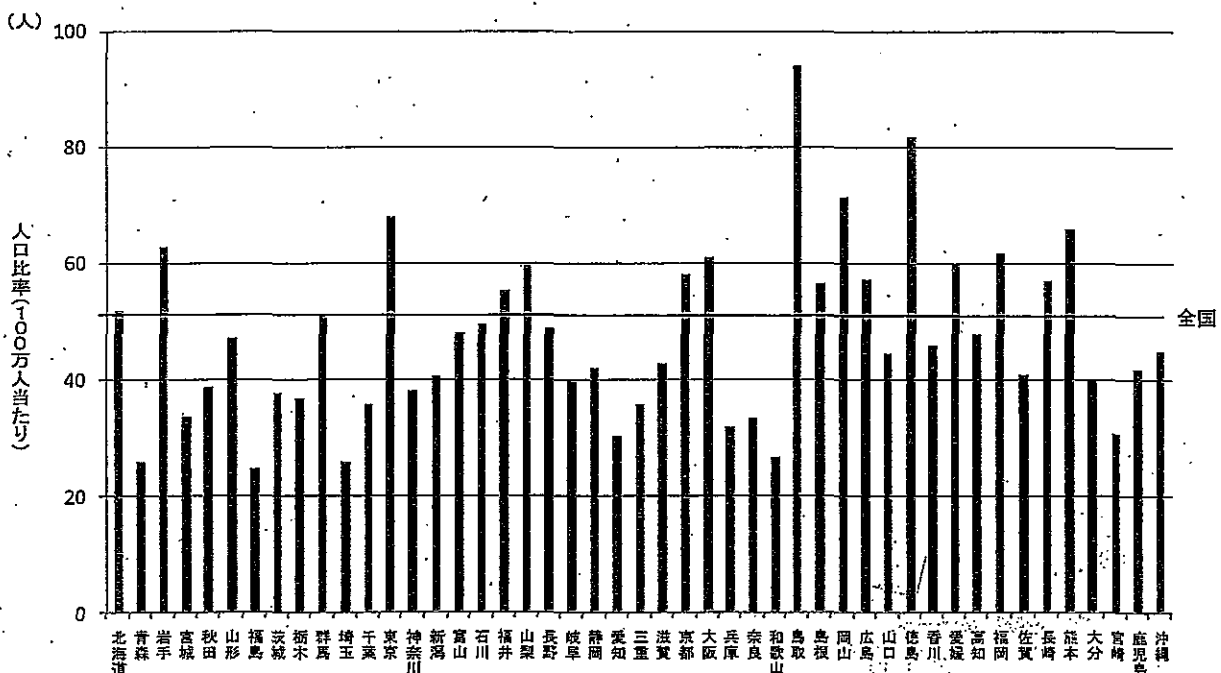
データソース：都道府県別にみた病院における常勤換算医師数及び人口10万対常勤換算医師数の年次推移
出典：医療施設(動態)調査・病院報告の概況(2008年)(厚生労働省大臣官房統計情報部)

ブロック別全国医師数 (病院における常勤換算医師数)



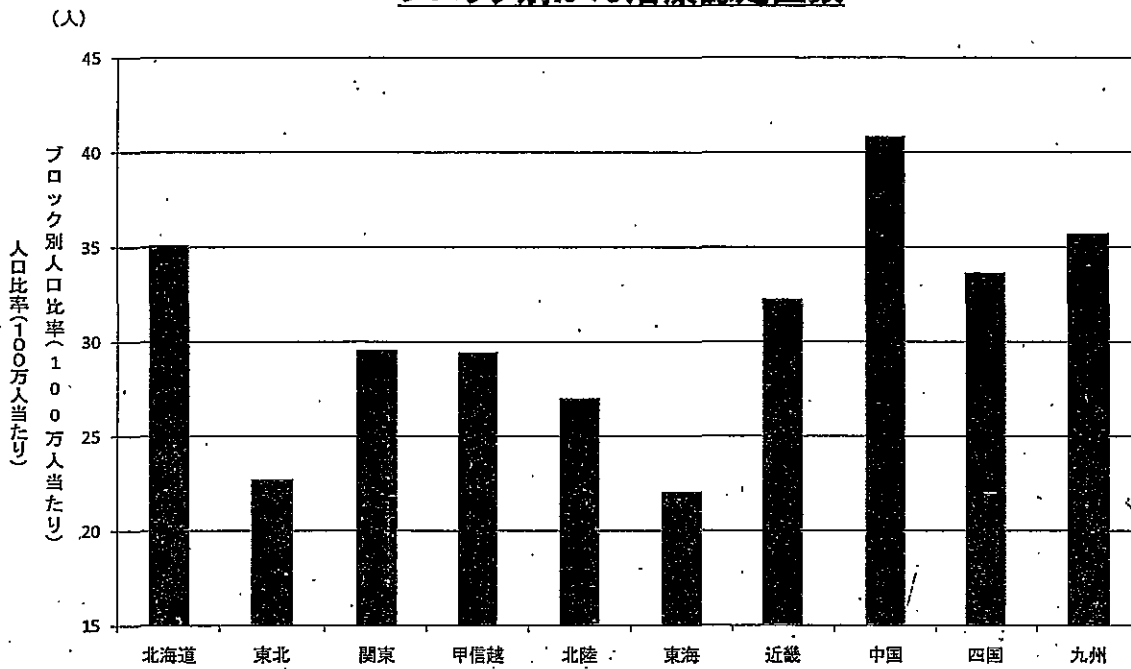
データソース：都道府県別にみた病院における常勤換算医師数及び人口10万対常勤換算医師数の年次推移
出典：医療施設(動態)調査・病院報告の概況(2008年)(厚生労働省大臣官房統計情報部)

がん治療認定医数



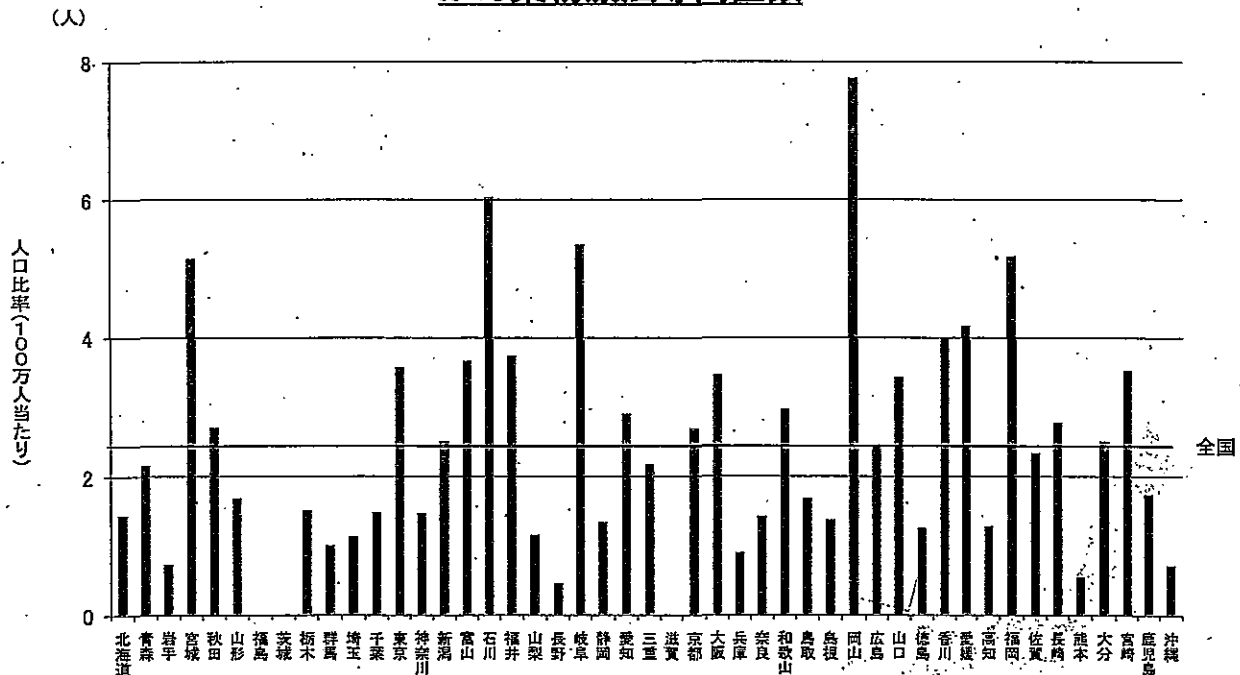
データソース：がん治療認定医数=日本がん治療認定機構ホームページより(2009年4月27日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

ブロック別がん治療認定医数



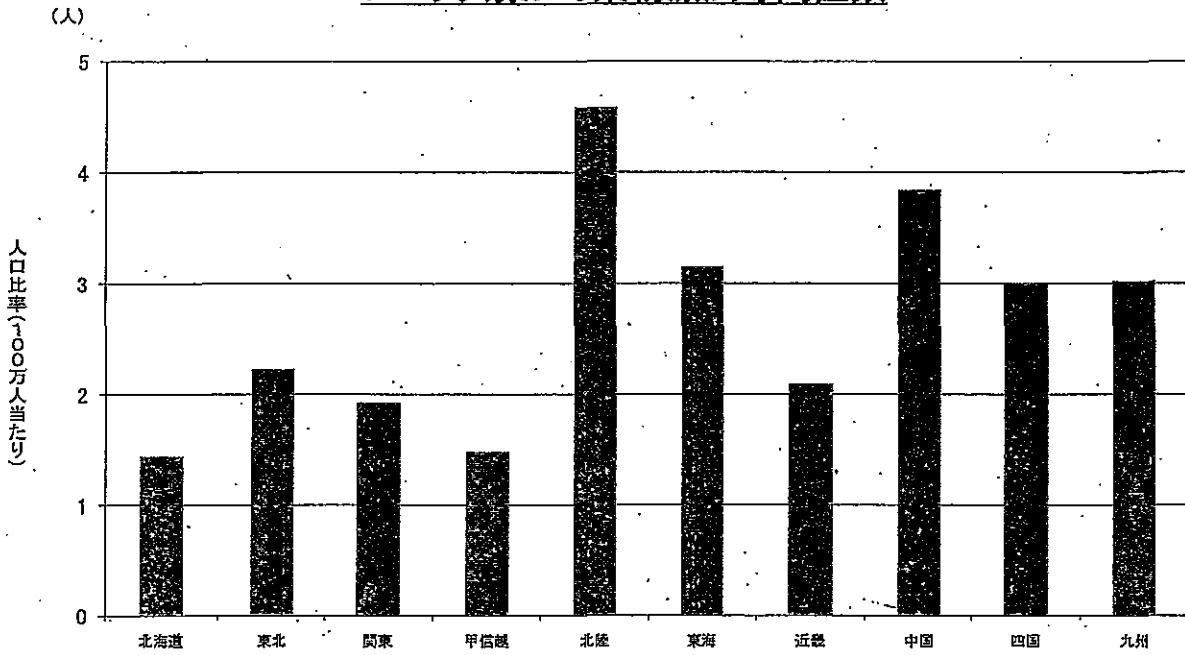
データソース：がん治療認定医数=日本がん治療認定機構ホームページより(2009年4月27日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん薬物療法専門医数



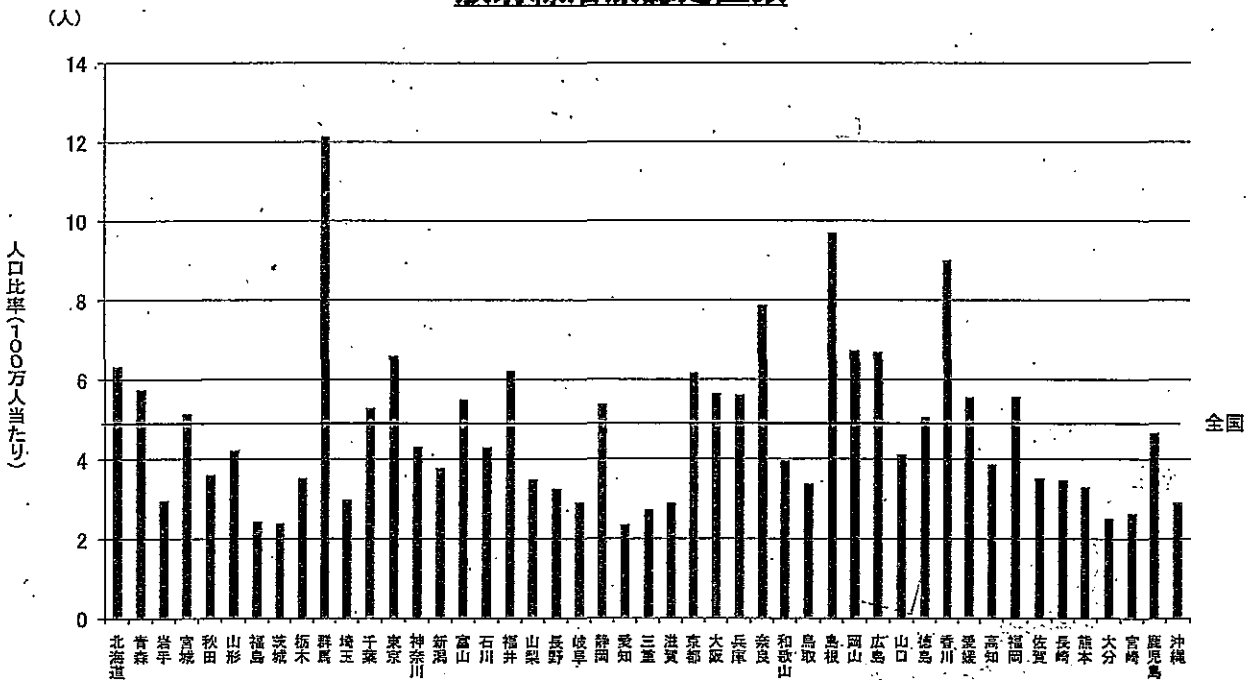
データソース：がん薬物療法専門医数=日本臨床腫瘍学会ホームページより(2009年9月28日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

ブロック別がん薬物療法専門医数



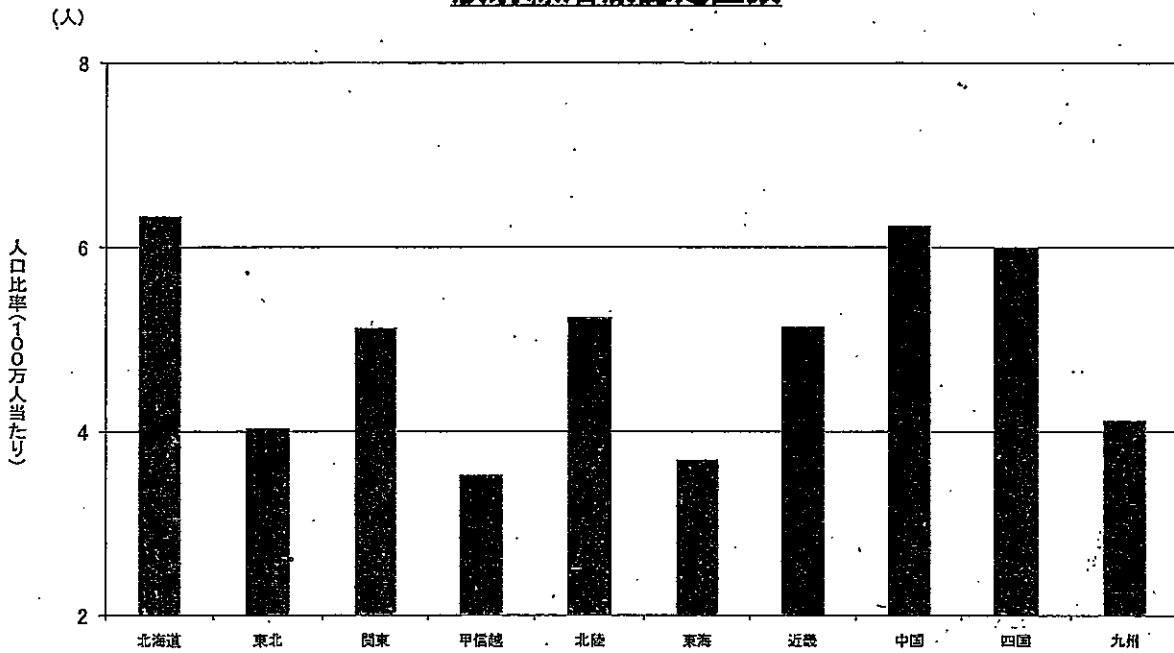
データソース：がん薬物療法専門医数＝日本臨床腫瘍学会ホームページより(2009年9月28日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

放射線治療認定医数



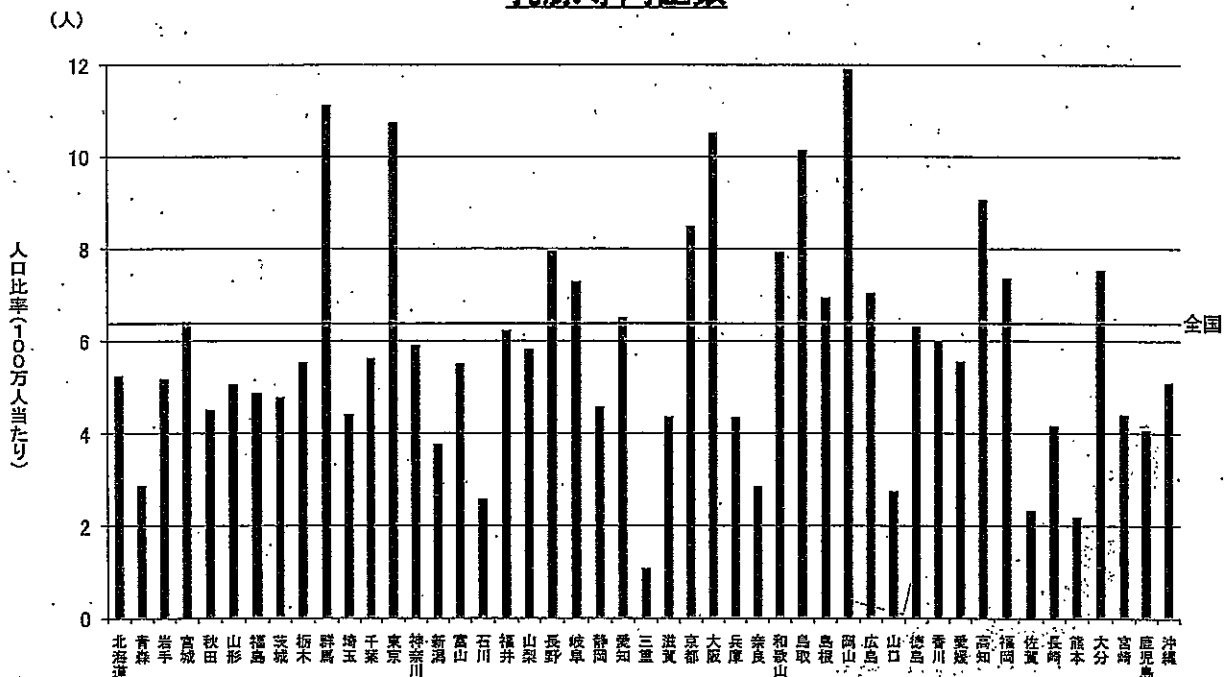
データソース：放射線治療認定医数＝日本放射線腫瘍学会ホームページより(2009年3月1日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

放射線治療認定医数



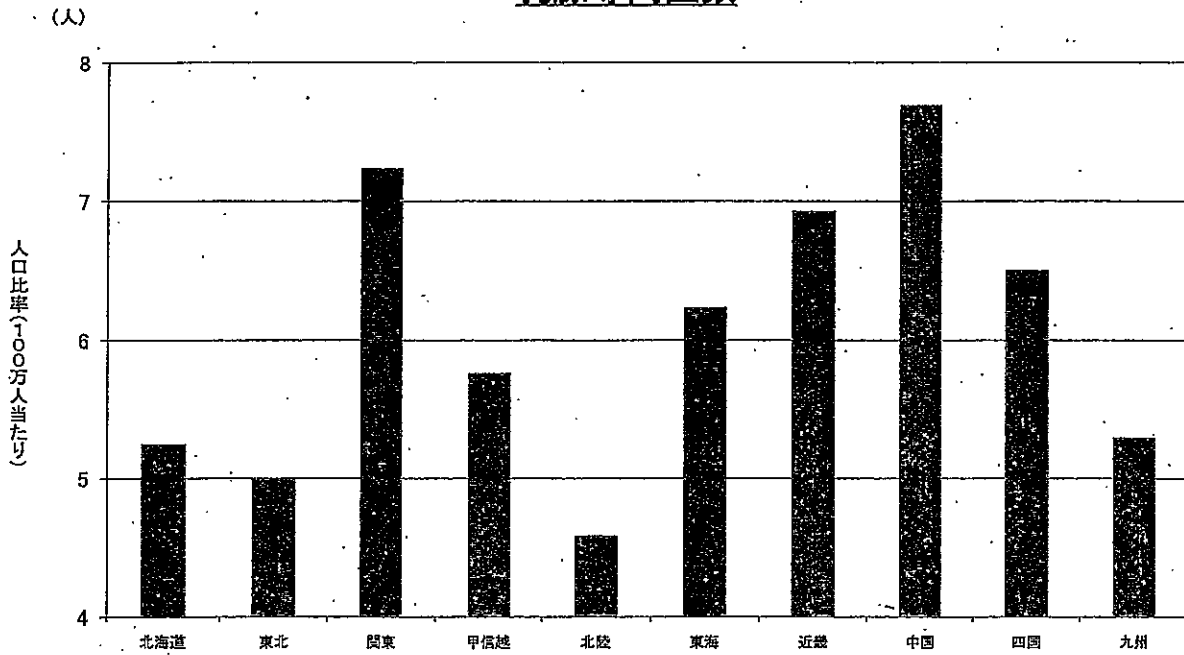
データソース：放射線治療認定医数=日本放射線腫瘍学会ホームページより(2009年3月1日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

乳腺専門医数



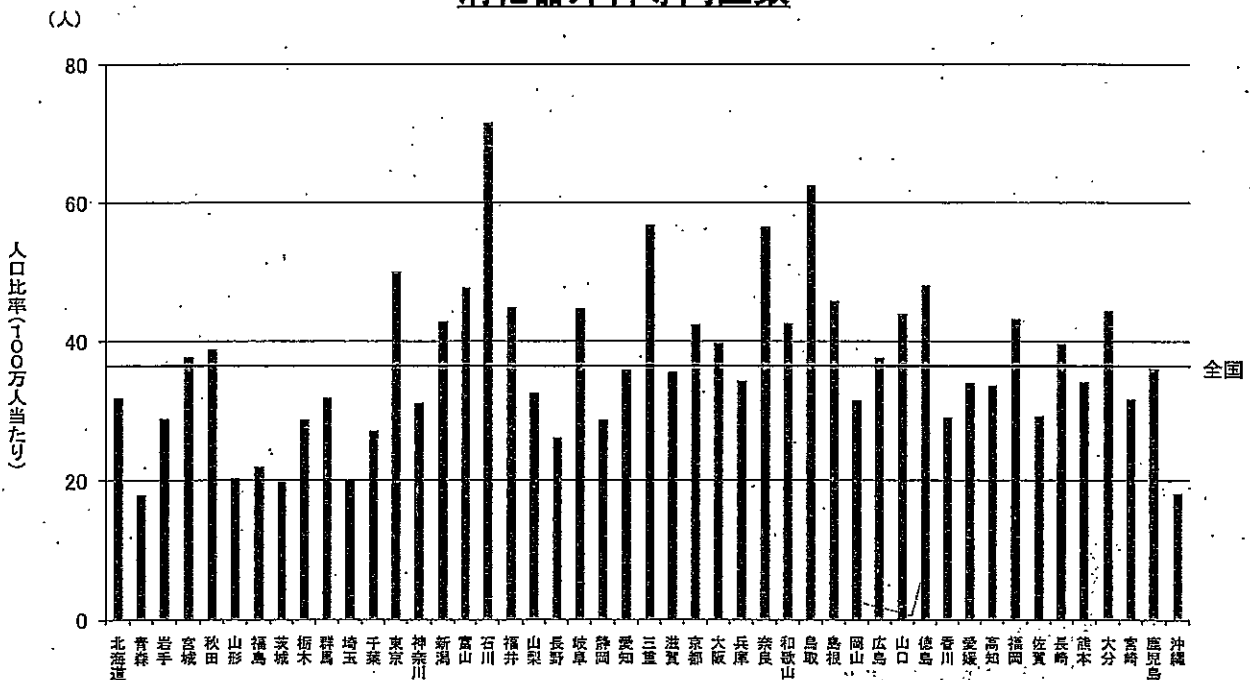
データソース：乳腺専門医数=日本乳癌学会ホームページより(2009年11月30日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

乳腺専門医数



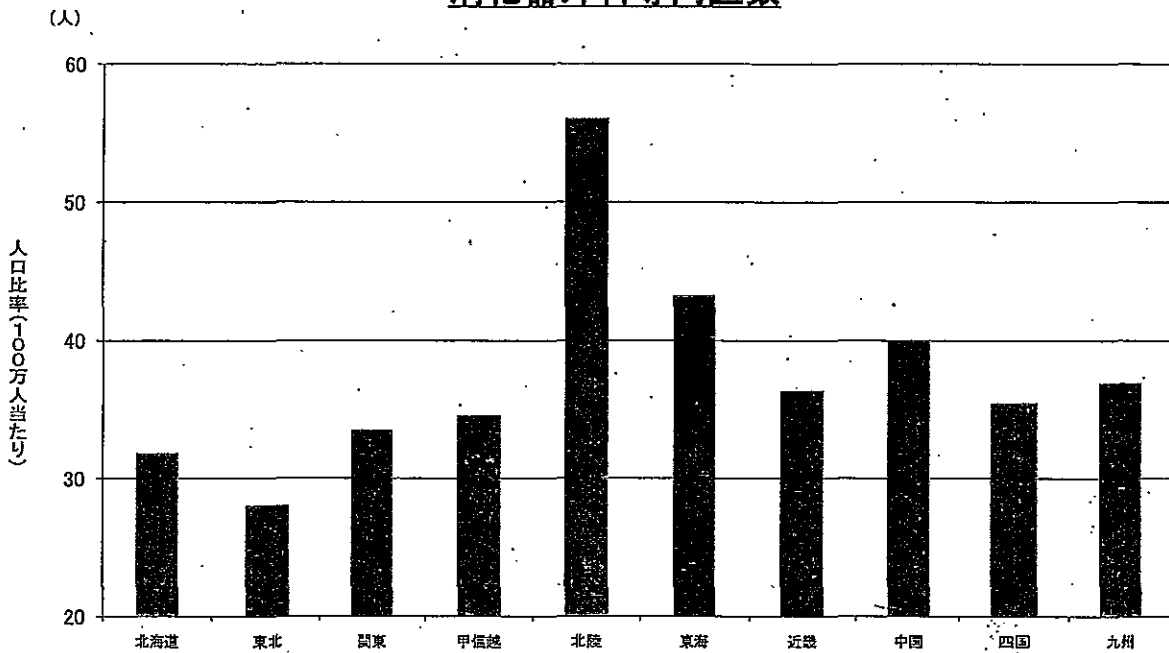
データソース：乳腺専門医数=日本乳癌学会ホームページより(2009年11月30日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

消化器外科専門医数



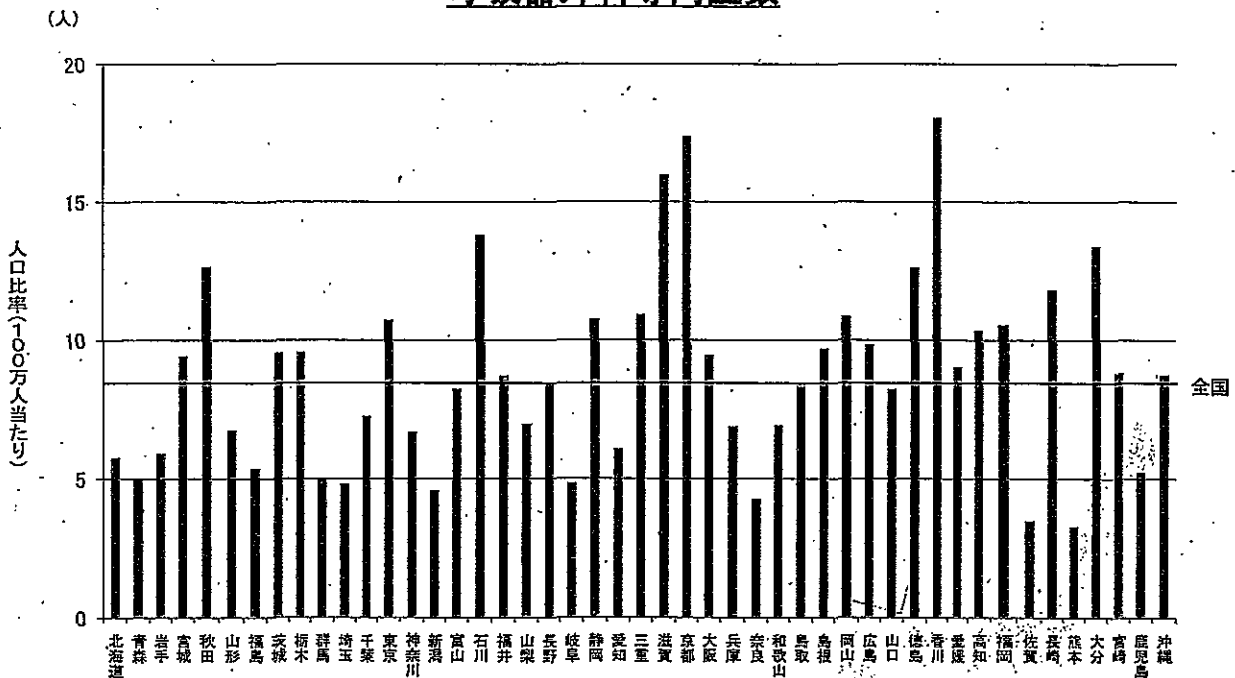
データソース：消化器外科専門医数=日本消化器外科学会ホームページより(2009年10月16日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

消化器外科専門医数



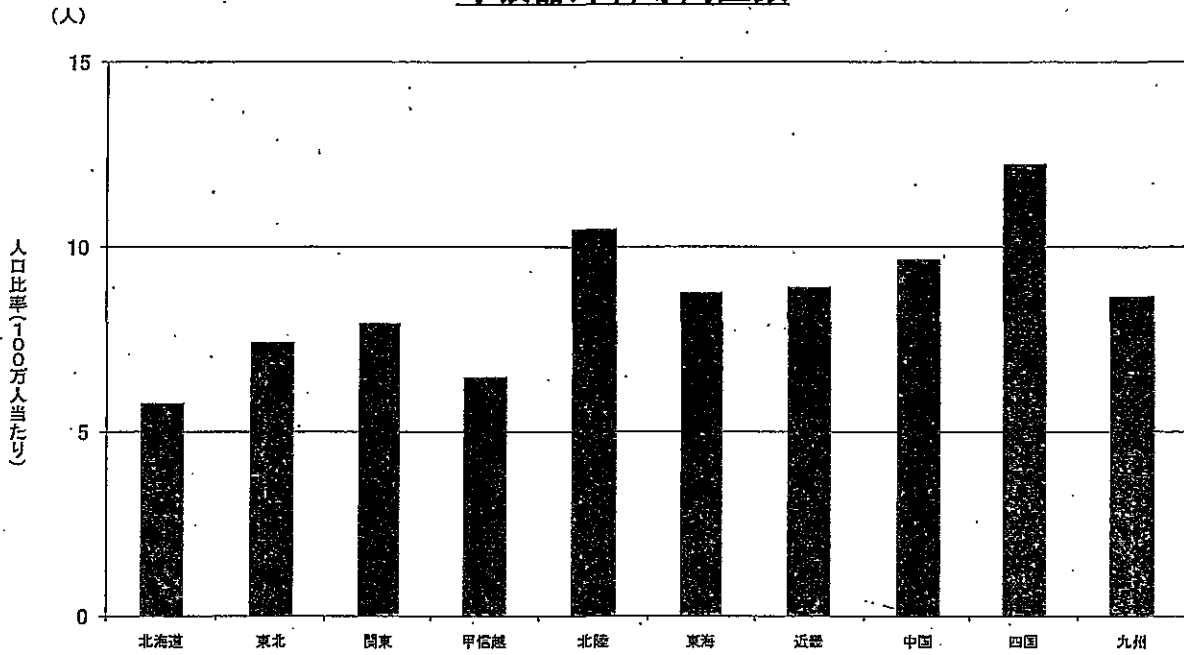
データソース：消化器外科専門医数＝日本消化器外科学会ホームページより(2009年10月16日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

呼吸器外科専門医数



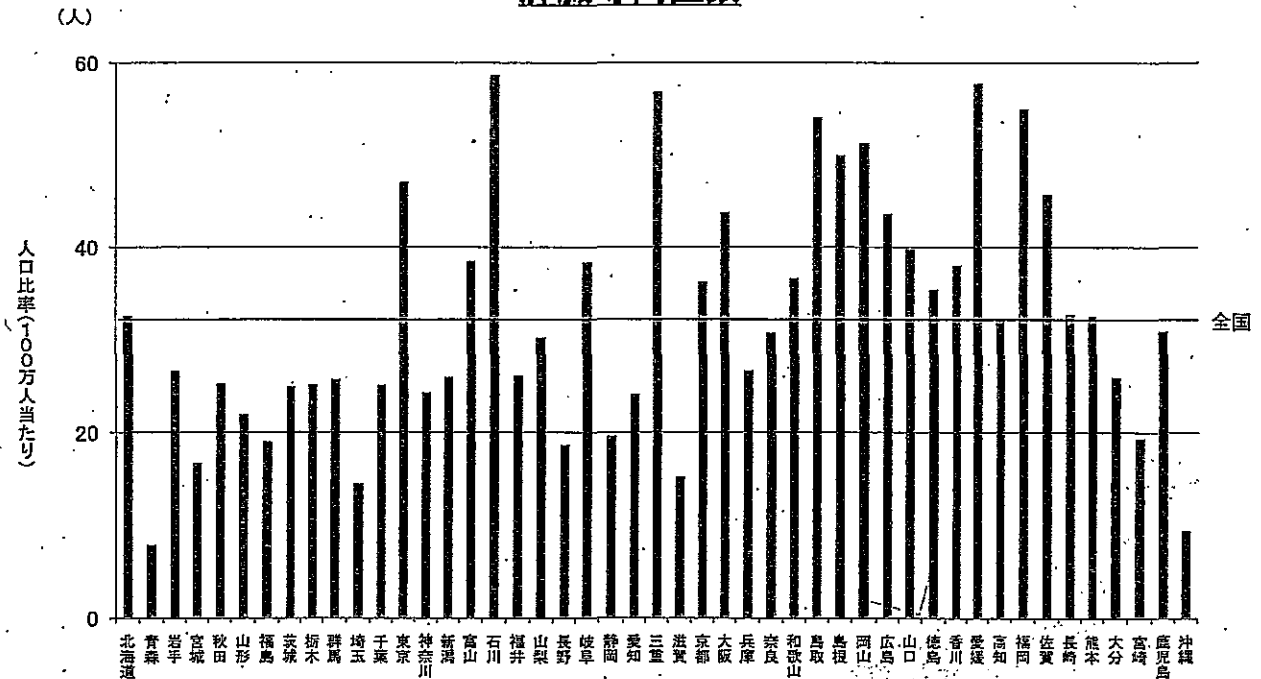
データソース：呼吸器外科専門医数＝呼吸器外科専門医合同委員会ホームページより(2010年1月15日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

呼吸器外科専門医数



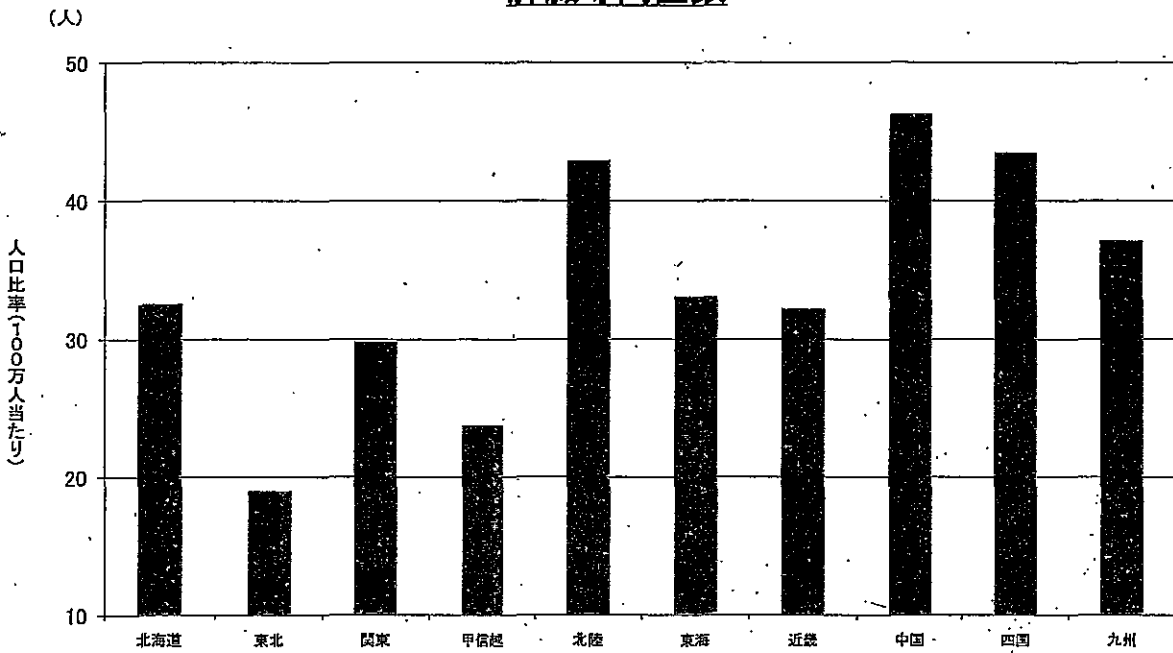
データソース：呼吸器外科専門医数＝呼吸器外科専門医合同委員会ホームページより(2010年1月15日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

肝臓専門医数



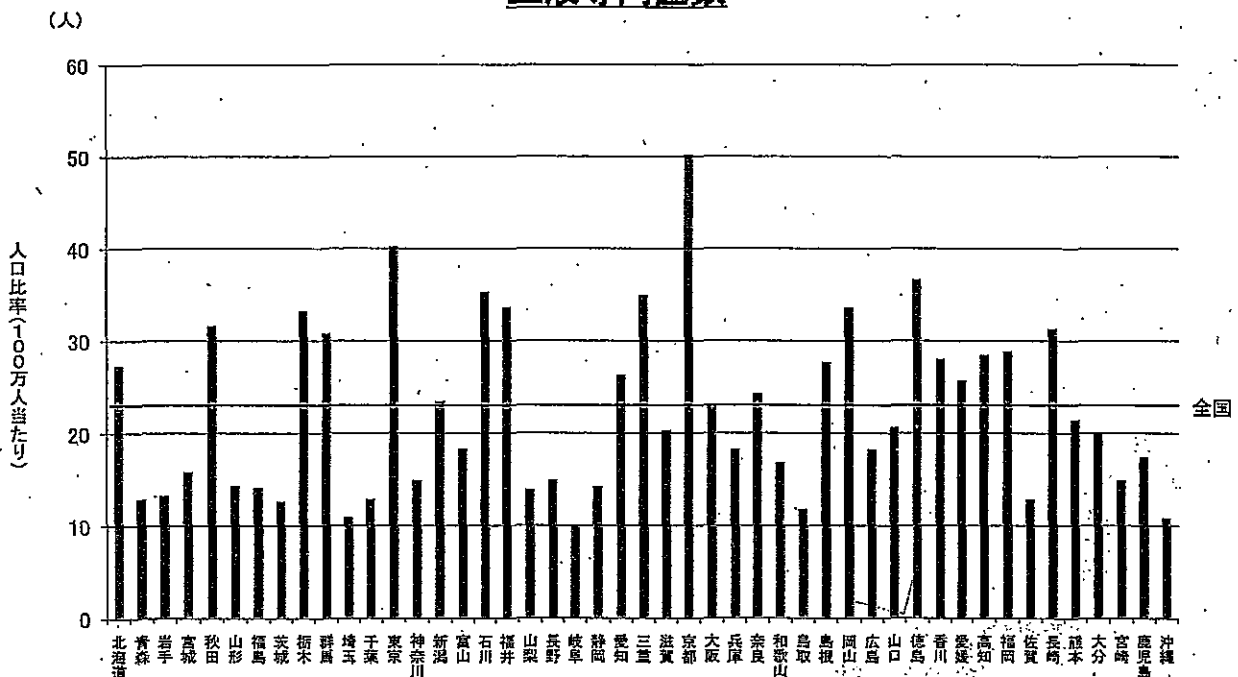
データソース：肝臓専門医数＝社団法人日本肝臓学会ホームページより(2010年1月1日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

肝臓専門医数



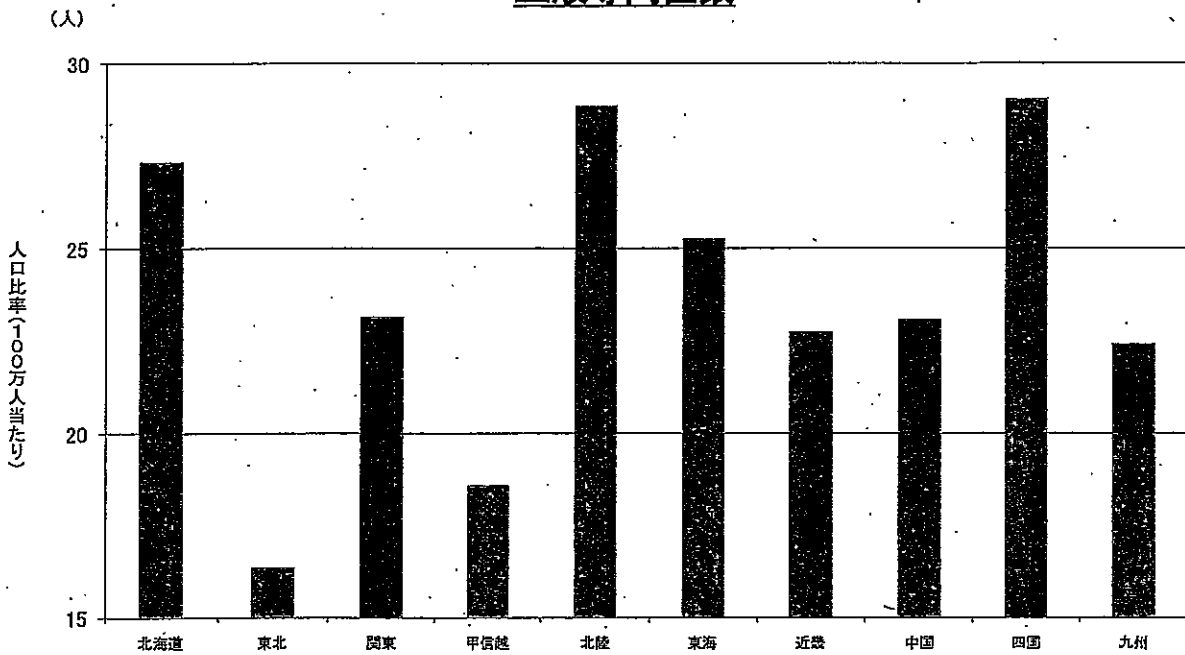
データソース：肝臓専門医数＝社団法人日本肝臓学会ホームページより(2010年1月1日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

血液専門医数



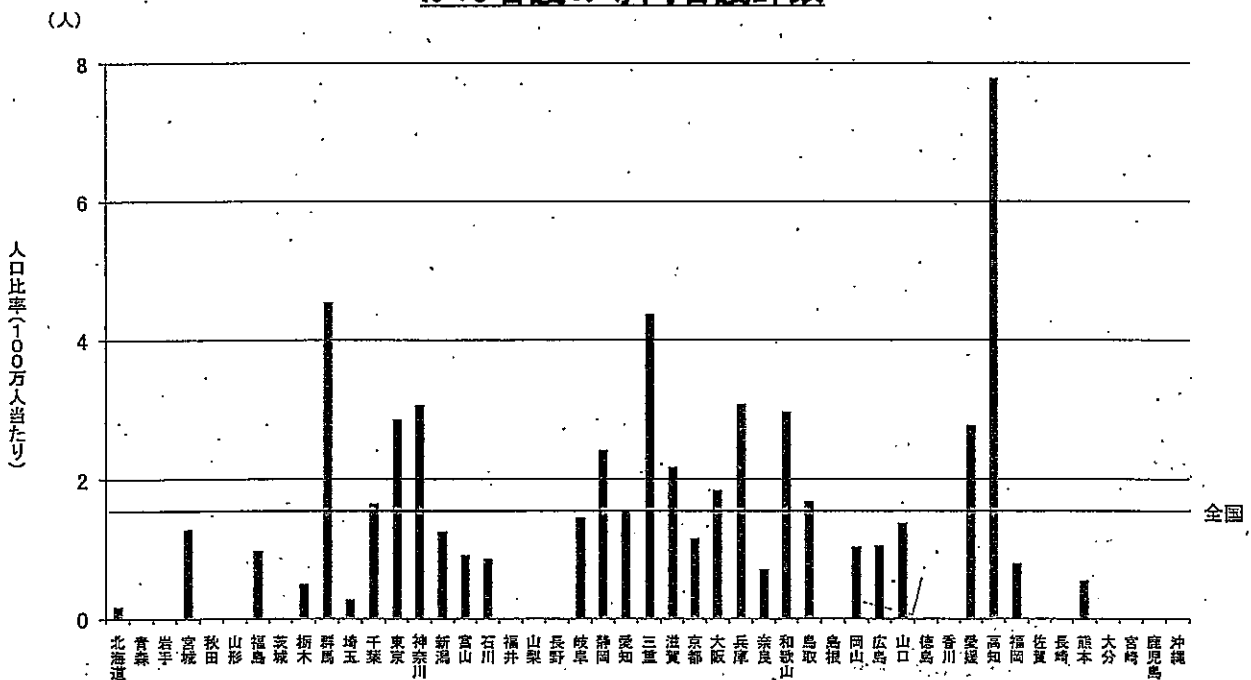
データソース：血液専門医数＝社団法人日本血液学会ホームページより(2010年1月15日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

血液専門医数



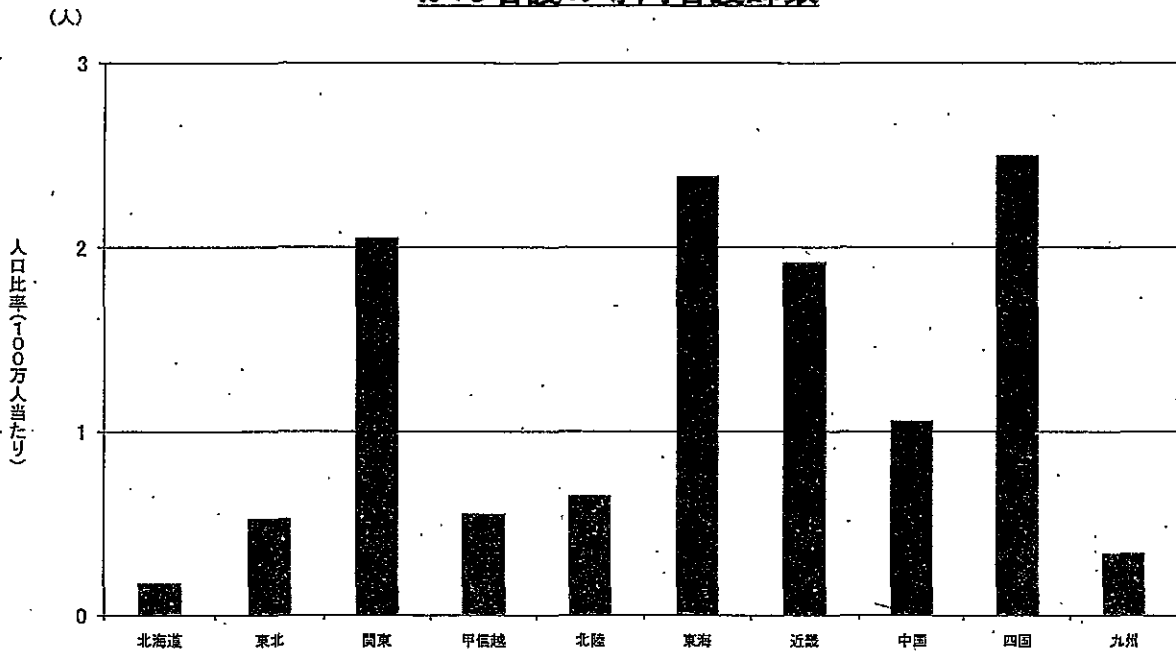
データソース：血液専門医数＝社団法人日本血液学会ホームページより(2010年1月15日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん看護の専門看護師数



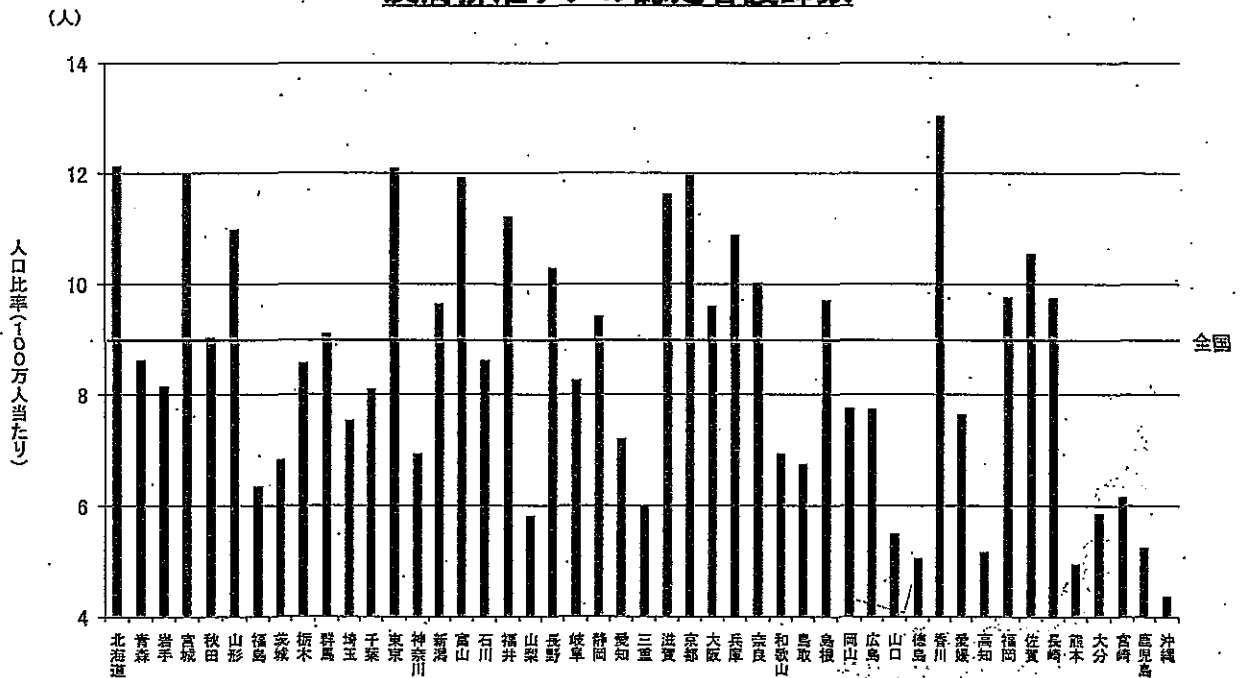
データソース：がん看護の専門看護師数＝社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月12日現在)
人口：平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん看護の専門看護師数



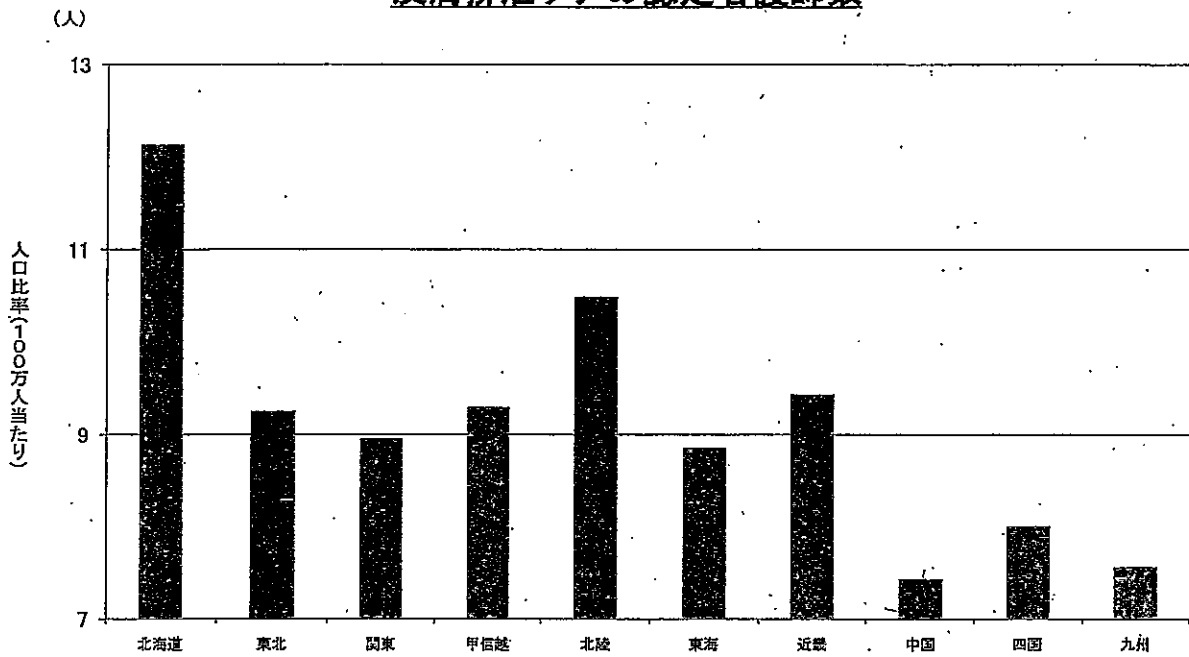
データソース: がん看護の専門看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月12日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

皮膚排泄ケアの認定看護師数



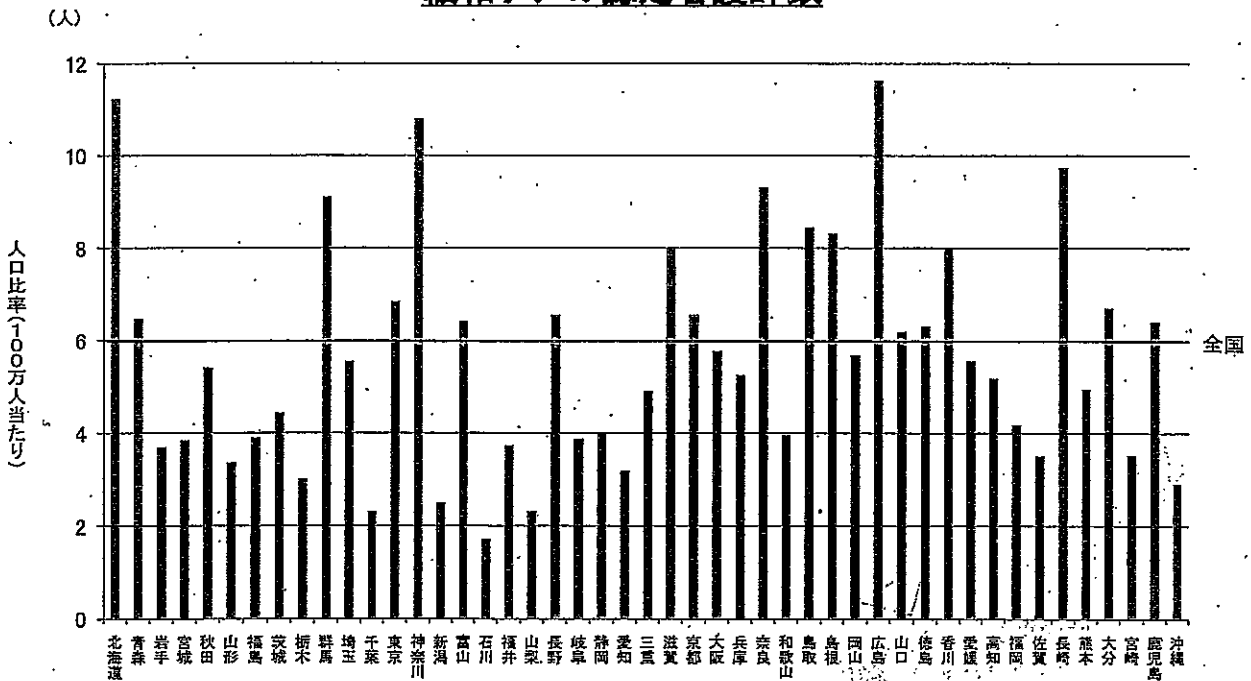
データソース: 皮膚排泄ケアの認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

皮膚排泄ケアの認定看護師数



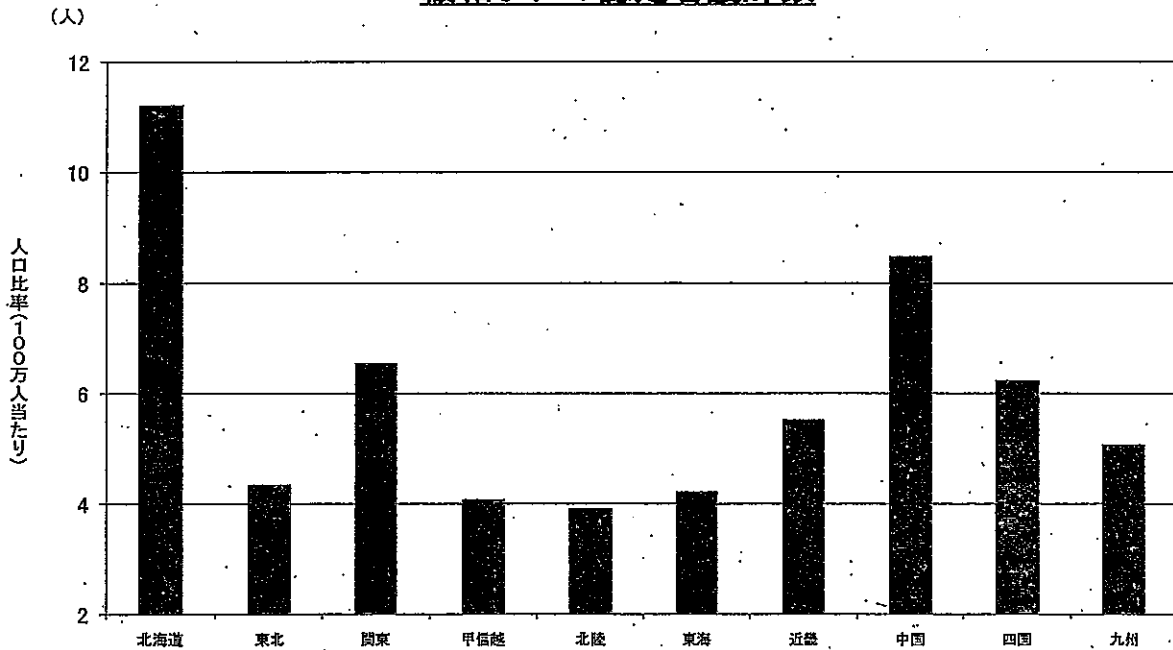
データソース: 皮膚排泄ケアの認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

緩和ケアの認定看護師数



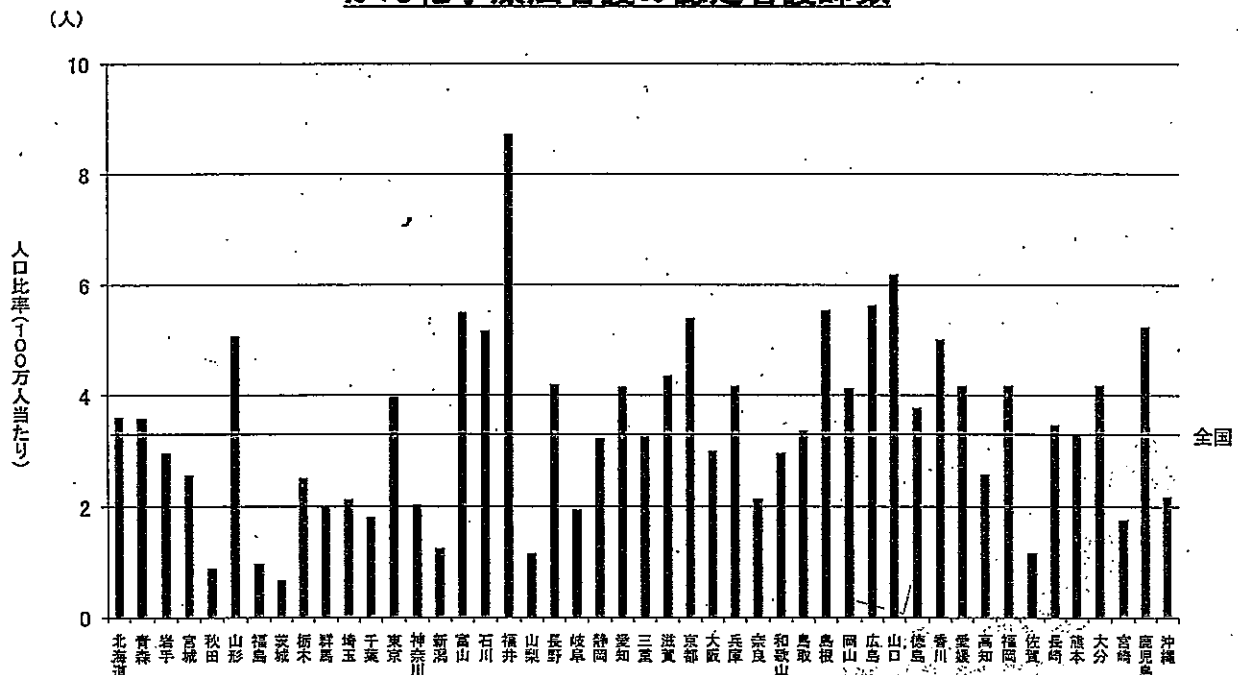
データソース: 緩和ケアの認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

緩和ケアの認定看護師数



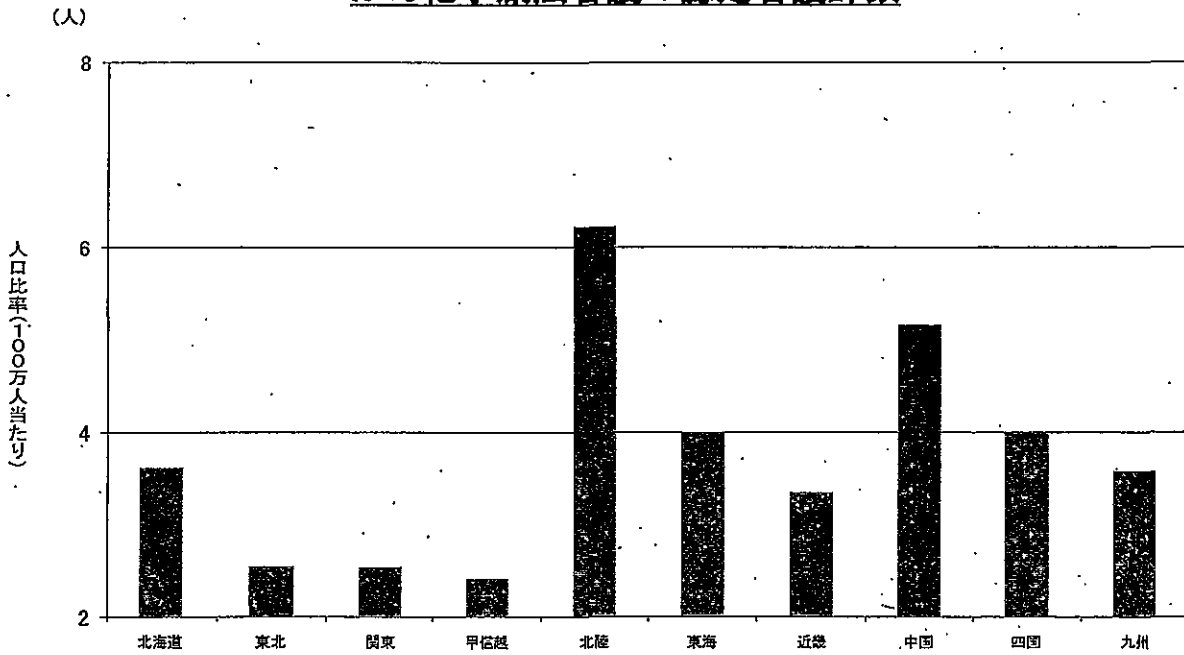
データソース:緩和ケアの認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口:平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん化学療法看護の認定看護師数



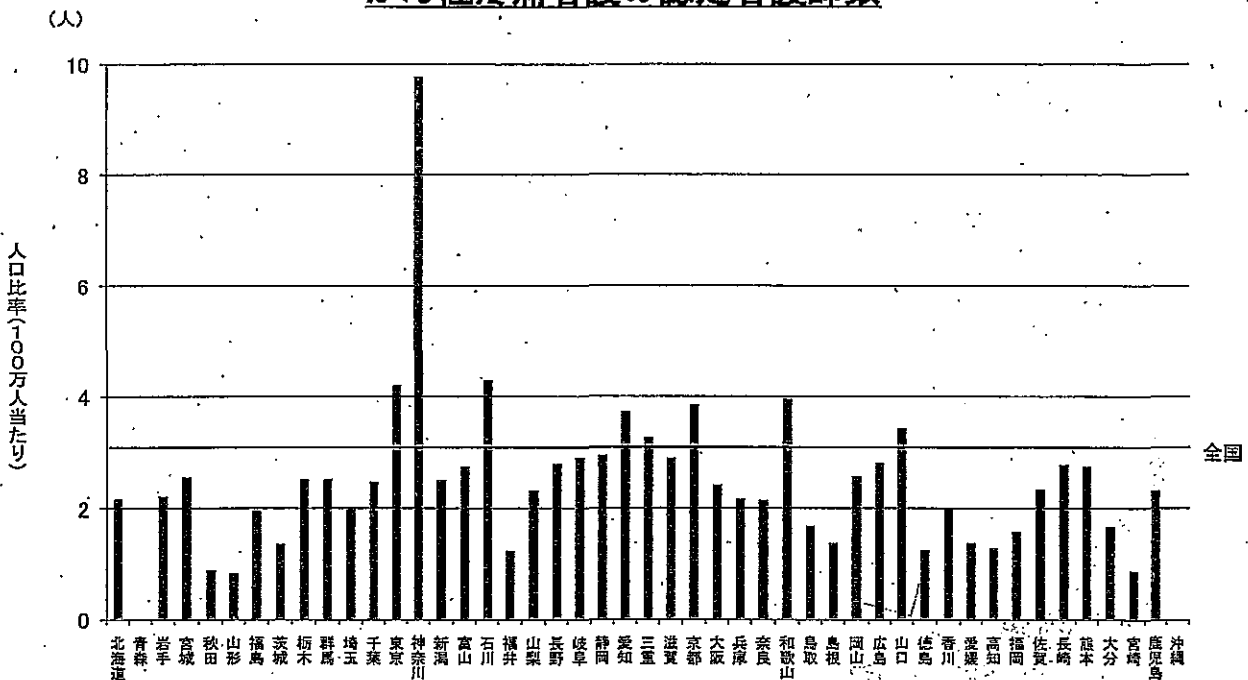
データソース:がん化学療法看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより2010年1月7日現在
人口:平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん化学療法看護の認定看護師数



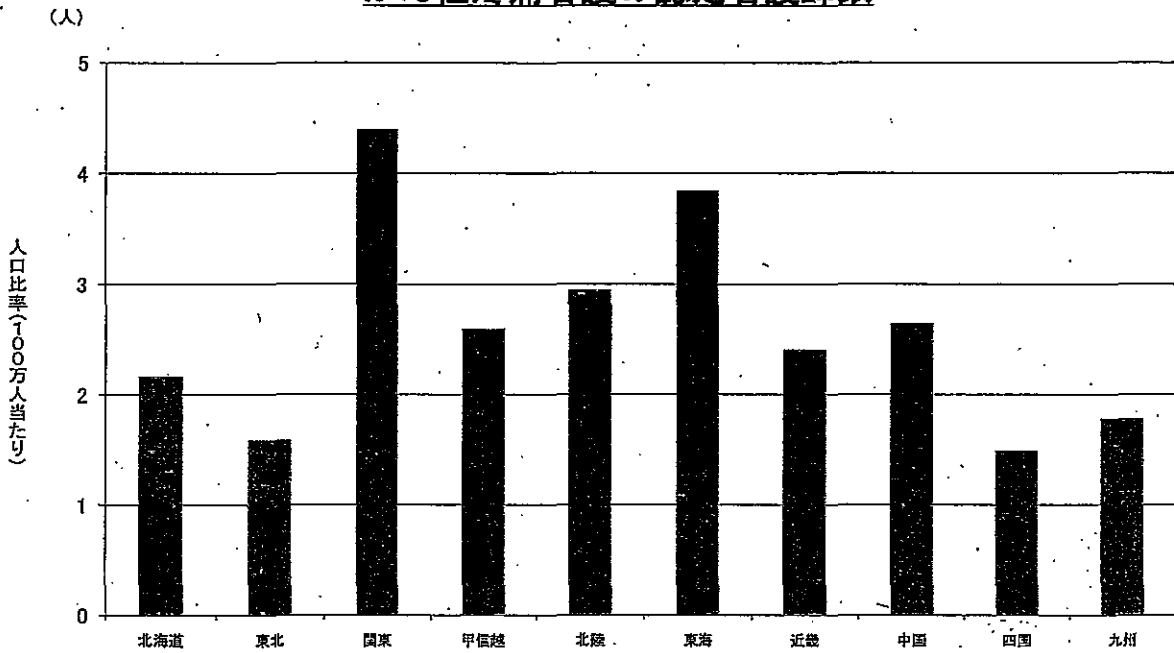
データソース:がん化学療法看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより2010年1月7日現在)
人口:平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん性疼痛看護の認定看護師数



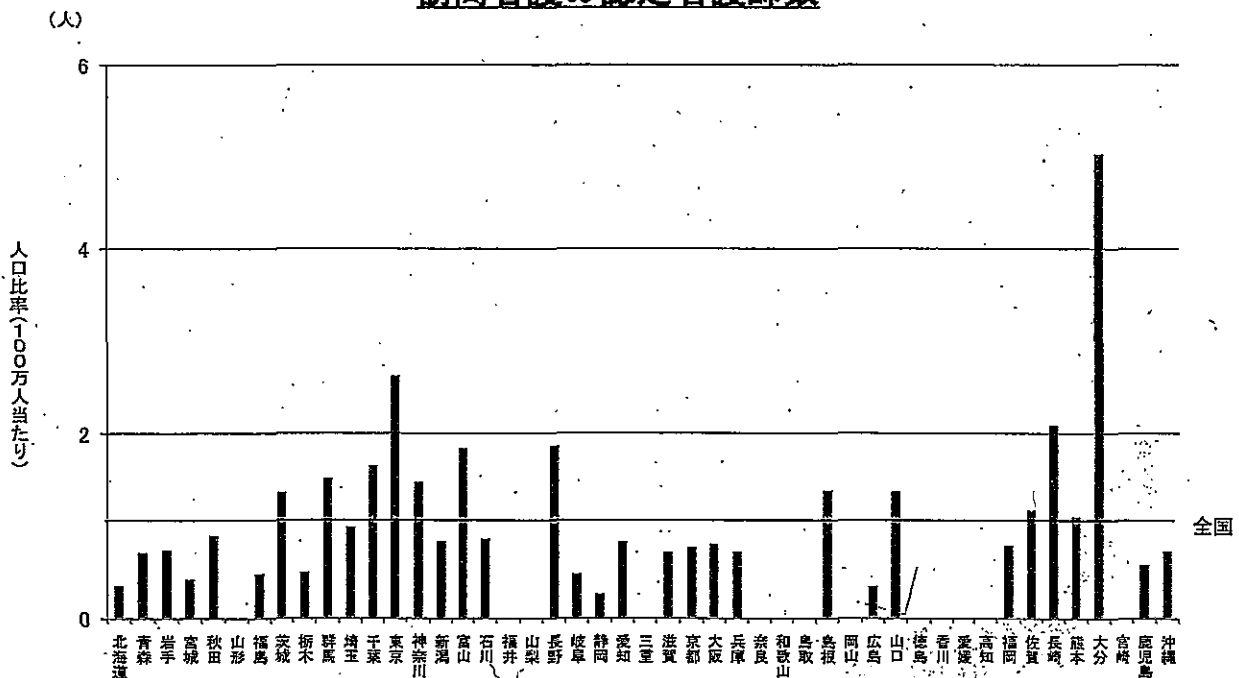
データソース:がん性疼痛看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより2010年1月7日現在)
人口:平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

がん性疼痛看護の認定看護師数



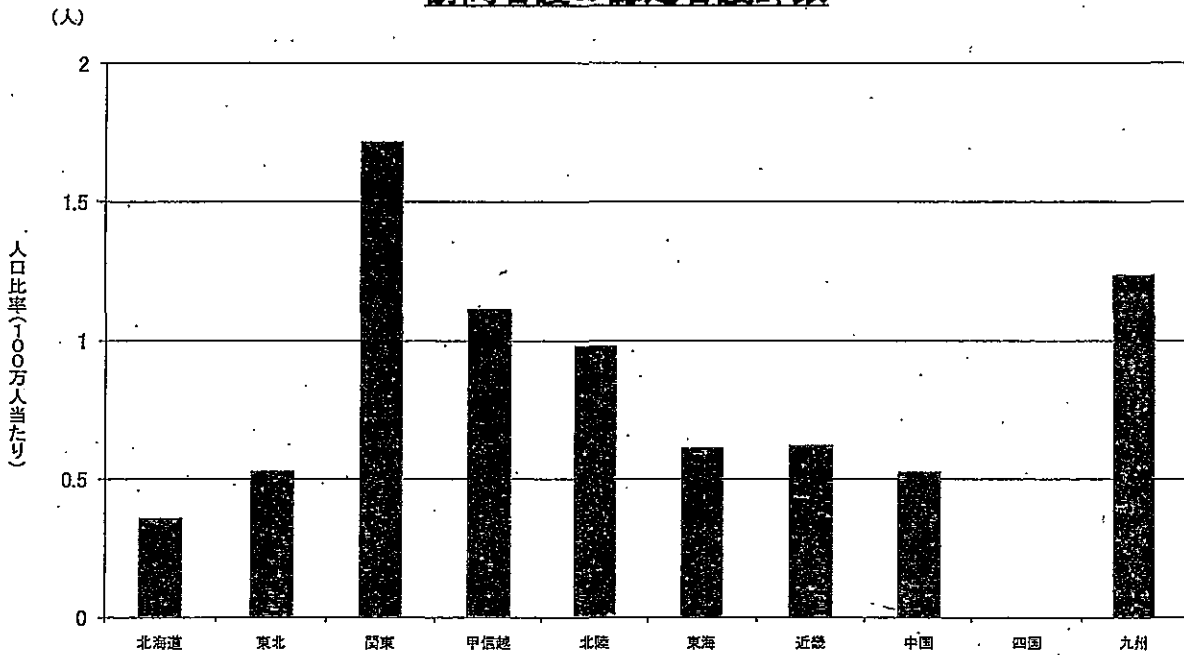
データソース:がん性疼痛看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより2010年1月7日現在
人口:平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

訪問看護の認定看護師数



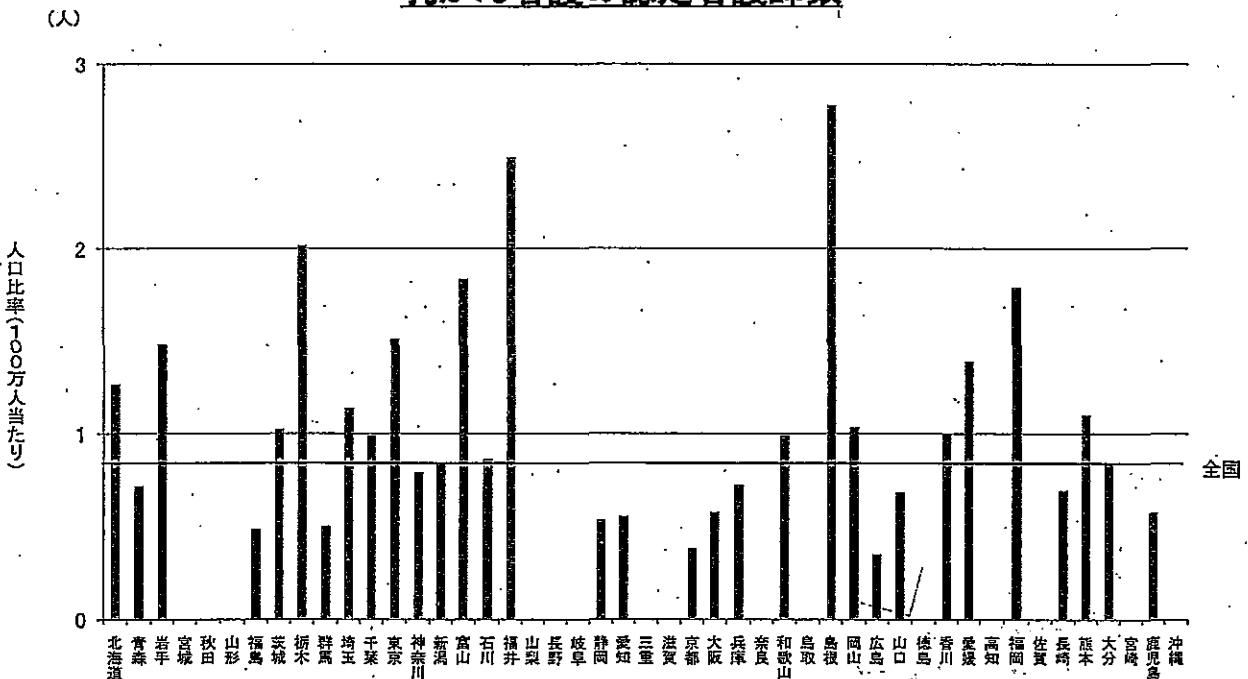
データソース:訪問看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより2010年1月7日現在
人口:平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

訪問看護の認定看護師数



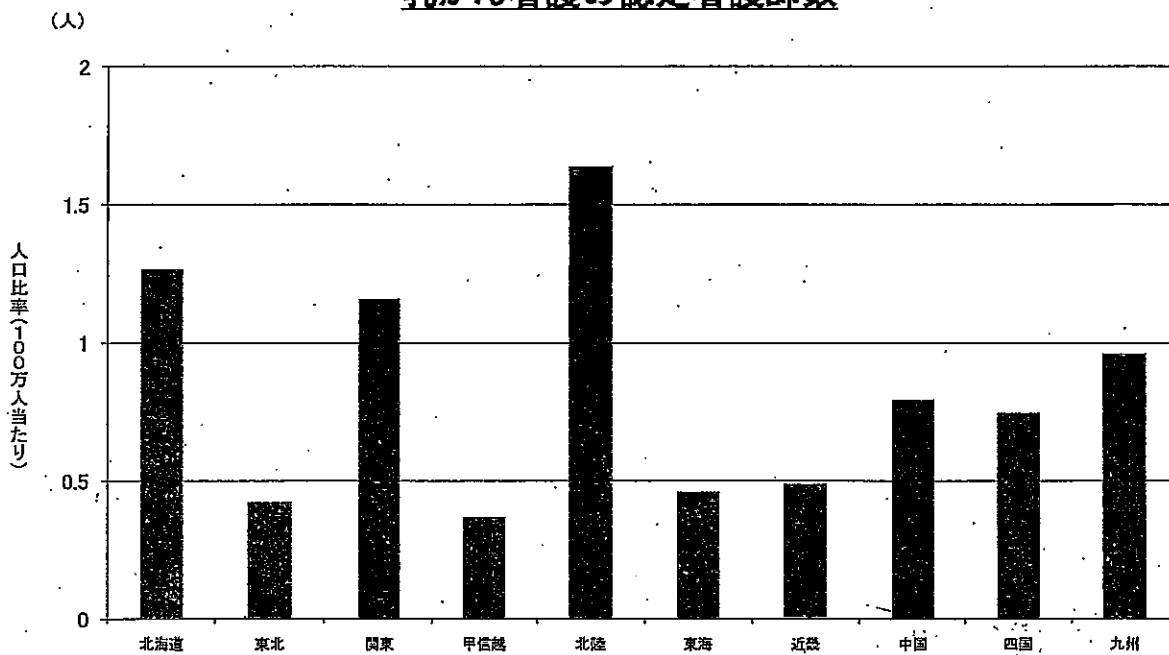
データソース: 訪問看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

乳がん看護の認定看護師数



データソース: 乳がん看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

乳がん看護の認定看護師数



データソース: 乳がん看護の認定看護師数=社団法人日本看護協会ホームページより(2010年1月7日現在)
人口: 平成20年10月1日現在推計人口(総務省統計局)

2010/3/11
<http://ganseisaku.net/>

第12回がん対策推進協議会

81



市民医療協議会
Commission on Citizens and Health